

協同教育実践資料 18

キラキラ輝いてともに学び合う 子どもの育成

学習形態・話し合いの工夫

板橋区立蓮根第二小学校 著
石井雅喜・杉江修治 監修

キラキラ輝いてともに学び合う 子どもの育成

学習形態・話し合いの工夫

板橋区立蓮根第二小学校 著

石井雅喜 監修
杉江修治

目 次

はじめに	1
I. 研究の概要	
1. 主題設定の理由	5
2. 研究構想図	6
3. 研究の重点	7
4. 研究の内容と進め方	7
5. 研究経過	8
6. 研究組織	9
II. 授業実践	
1. 第1学年の研究授業	
体育科 ボール投げゲーム「もうじゅうがりにいこう」	13
2. 第2学年の研究授業	
算数科「計算のしかたをくふうしよう」	30
3. 第3学年の研究授業	
体育科「忍者への道」	47
4. 第4学年の研究授業	
社会科「地図のひみつをさがそう」	70
5. 第5学年の研究授業	
国語科 情報を深める「新聞を作ろう」	78
6. 第6学年の研究授業	
道徳「お楽しみ会」2ー(3) 信頼・友情 4ー(3) 責任	91
III. 研究の成果と課題	
本年度の研究の成果と課題	105
蓮根第二小学校の実践づくりについて	106
おわりに	106

はじめに

本年度で、本校の協同学習への取り組みも3年が経過しました。最初は「協同学習って何。」「どんな研究をすればいいかわからない。」といった声が教員から上がっていましたが、最近はそのような声も耳に入らなくなりました。それだけ、協同学習への理解が浸透してきた結果であるとうれしく感じております。本校に異動してきたばかりの教員からは、初年度に教員が戸惑っていたのと同様な様子が見られます。協同学習の理解・実践には、2～3年の時間を要することが分かります。

昨年度までの2年間は、「板橋区教育委員会いたばしの教育ビジョン学力向上推進研究校」の指定を受け、協同学習の研究を進めて参りました。学習の見通しや学習意欲を持続させるために「課題提示の工夫」に焦点を当ててきました。その結果、課題提示の工夫は、授業で実践されるようになり、少しずつ成果をあげてきております。

その研究を一步進めるために、今年度は「学習形態の工夫」に焦点を当て、研究を進めていくことにしました。学習活動を活性化させ、学び合いの学習を確かなものにするために、学習の形態を工夫する必要があると考えたからです。学習経験の少ない子供たちに、ただ話し合いをなさいと言っても、話し合いは深まりません。低学年のうちから、グループでの話し合い方法を理解させ、その経験を積み重ねることによって主体的な学び合いができるようになると考えています。話し合いの手だてとして「私の考えは〇〇です。〇〇さんはどう思いますか。」など、2人組による話し合いの方法を担当が提示し、繰り返して指導していきます。その結果、自分の考えを相手に伝えたり、相手の話を聞いたりする経験が増え、次第に主体的な話し合いができるようになると思われました。

友達の考えを聞き自分の意見を相手に伝える内容を年齢に応じて工夫したり、話し合いのときは椅子だけで向き合った方がよいのか、それとも机があった方がよいのか、グループの人数は2人がよいのか、それともそれ以上の人数がよいかなど、年齢や学習内容によってグループ数を吟味したりすることも大切です。高学年になった時の質の高い主体的な学び合いを目標に、1年生のうちからこうした工夫を重ねながら取り組む必要があります。そして、この目標値を全教員で共有化し、実践に移していくとき、大きな成果を得ることが期待できます。それが、協同して研究を進める意義のひとつであると考えております。

今年度、このように学習形態の工夫に焦点を当てた研究を学年ごとに提案しました。その結果、協同学習の研究が一步前進したものと感じております。スムーズに話し合いに入ったり、活発な話し合いの様子が観察されたりするようになってきました。それは、学習形態の工夫に視点を置き、研究を進めてきた成果ではないかと考えております。

3年間研究を深めてまいりましたが、まだまだ多くの課題が残されております。学び合いの学習を確かなものにするには、この学習方法を子供自身が身に付けている必要があります。教師から言われるのではなく、子供自身が進んで切磋琢磨し互いに伸びていくとき、

本当の学び合いが成立すると考えております。また、本時の終了時に学習を振り返ることで、本時の学習内容を確認し、次時への意欲付けを図る学習も大切です。こうした課題の達成に向け、これからも協同学習の研究を進めていく必要性を強く感じております。

協同学習の考え方は、これからの子供たちにとって欠かすことのできない「学びの思想」であるとの考えに変わりはありません。これからも、教員一同互いに切磋琢磨し“学び合い”、研究を深めていく所存です。

本校の研究を今までご指導くださいました講師の先生方、板橋区教育委員会の先生方、地域・保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

板橋区立蓮根第二小学校校長 石井 雅喜

I . 研究の概要

1. 研究主題と主題設定の理由
2. 研究構想図
3. 研究の重点
4. 研究の内容と進め方
5. 研究経過
6. 研究組織

1. 主題設定の理由

本校では、平成 22 年度より、研究主題を「きらきら輝いてともに学び合う子の育成」として研究を進めてきた。それは、子供一人一人に学ぶ楽しさや友達と互いに助け合い学び合う大切さを味わわせることで、これから知識基盤社会を生きる子供たちに確かな学力を身に付けさせたいと考えたからである。本校の子供たちは、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び思考力・判断力・表現力とも二極化傾向にあり、学力の底上げが課題となっている。そこで、子供たちがともに学び合い励まし合う学習を日々の授業の中で実践していくことで学ぶ意欲を高め、自分の考えをもつことができるようになり、ひいては学力向上につながると考えた。互いに認め合い、励まし合い、高め合う学びを取り入れた学習（協同学習）は、友達と関わる中で学ぶ喜びを感じとることができ、友達がいるからこそ自分が高まることができると子供自身が感じられる取組であると考えた。

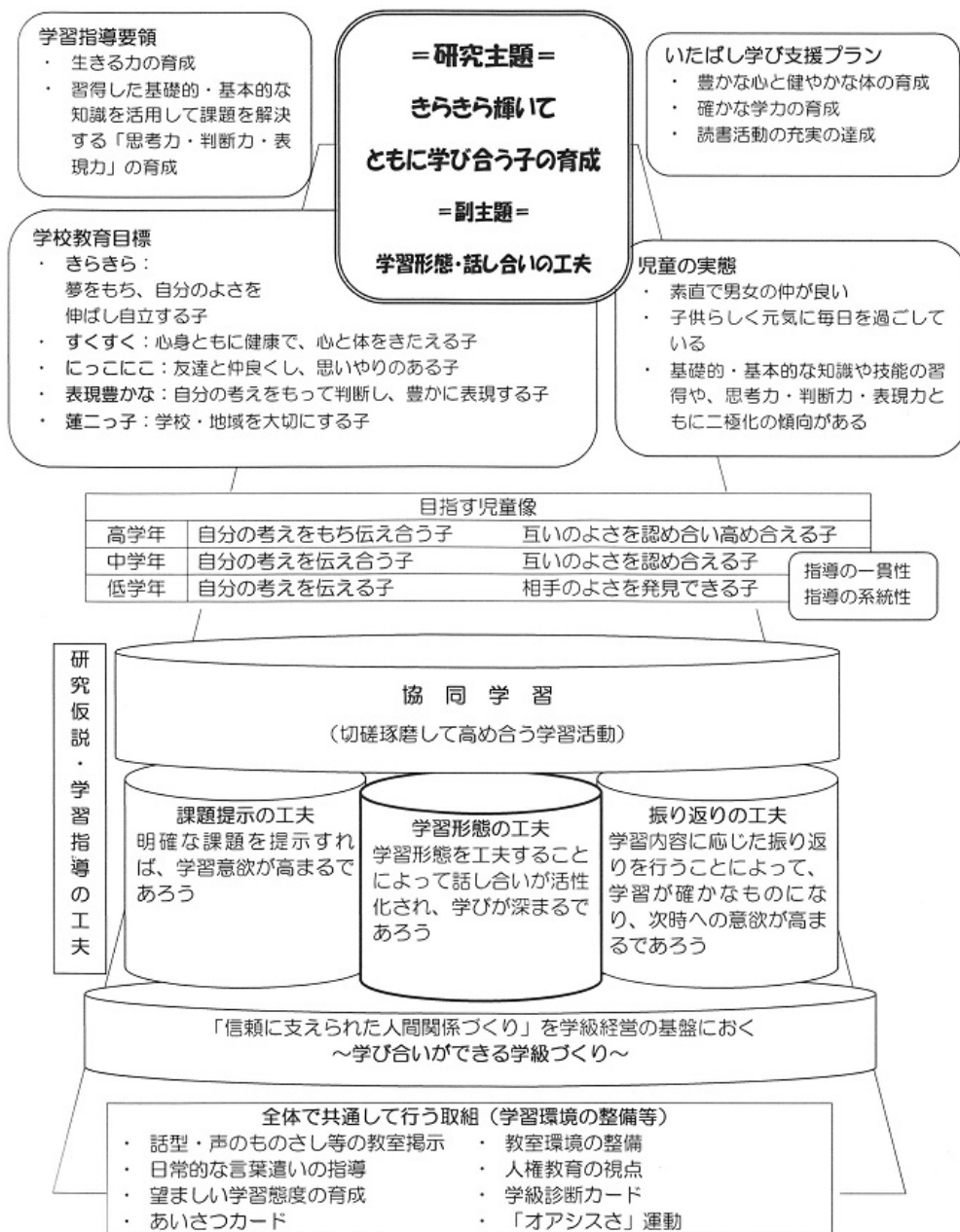
昨年度までは、協同学習の根幹をなす、課題提示の工夫・学習形態の工夫・振り返りの工夫の 3 つに焦点を当て、学びを深めようと試みてきた。その成果としては、次の 4 点が挙げられる。

- ①課題提示の仕方を工夫し、学習の流れを明確にしたことにより、見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ②繰り返し考える場を設け、ペアやグループで意見交換し学びを深めていく意識をもたせることで、自分の考えをもてる子供が増えてきた。
- ③子供同士の話し合いで、身を乗り出し、頭をつけるようにして「なるほど」「じゃあこのときは？」などの声を出しているのを聞いて、新しい考えに出会うことができているのを感じた。
- ④毎時間学習の振り返りを行うことで、本時の学習の成果を確認し、次時への学習への意欲化を図ることができた。

これらのことから、学び合いの学習の方法を理解したことで、一定の深まりはあった。しかし、話し合いの質を高め、より深い学び合いの学習ができるまでには至っておらず、自信をもって主体的に取り組むまでには育っていない。

そこで、学習形態の工夫に重点をおくことで、様々な友達と学びを共有する機会が増え、学び合いの活動がより活発になったり理解が深まったりすると思った。また、話し合いの質を高める工夫を学年に応じて行うことで、話し合いを通して自分の考えを確認したり深めたりすることができ、学習が活性化するのではないかと考えた。よって、副主題を「学習形態・話し合いの工夫」と設定した。学び合いの方法を子供自身がつかみとり、学級全体でも活発な意見交換ができ、学習を深めていけるように働きかけていきたい。

2 研究構想図



3. 研究の重点

主題にせまるための手だてとして、以下の観点で授業研究を推進した。

(1) 課題提示の工夫

学びたいと感じ、学習の見通しをもつことができる導入の工夫を行っていく。

◇単元の流れ・本時の学習の流れの提示

◇授業の導入時の明確な課題の提示

(2) 学習形態・話し合いの工夫

課題解決に向け、主体的に活動できる場を設定する。話し合いの進め方が分かるような工夫を行っていく。

◇ペア・コの字型・ジグソー学習など

◇話し合いの進め方のマニュアル化（初期）

(3) 振り返りの工夫

終末に学習を振り返ることで、その時間の自分の学習内容を客観的に捉え、次時への意欲をもたせることができるような機会を毎時間設定する。

◇めあてに即した振り返り

◇記述に対するコメント

4. 研究の内容と進め方

「きらきら輝いてともに学び合う子の育成—学習形態・話し合いの工夫—」の研究主題で、教科・領域を絞らず、低・中・高学年分科会（専科は各分科会に別れて入る）ごとに、具体的な実践を指導案として組み立て、授業を通し研究を進める。

◇分科会で検討した案を研究推進委員会で検討する。

◇ペアやグループでの話し合いの様子が分かるように、各グループ（ペアは抽出）記録をとる。

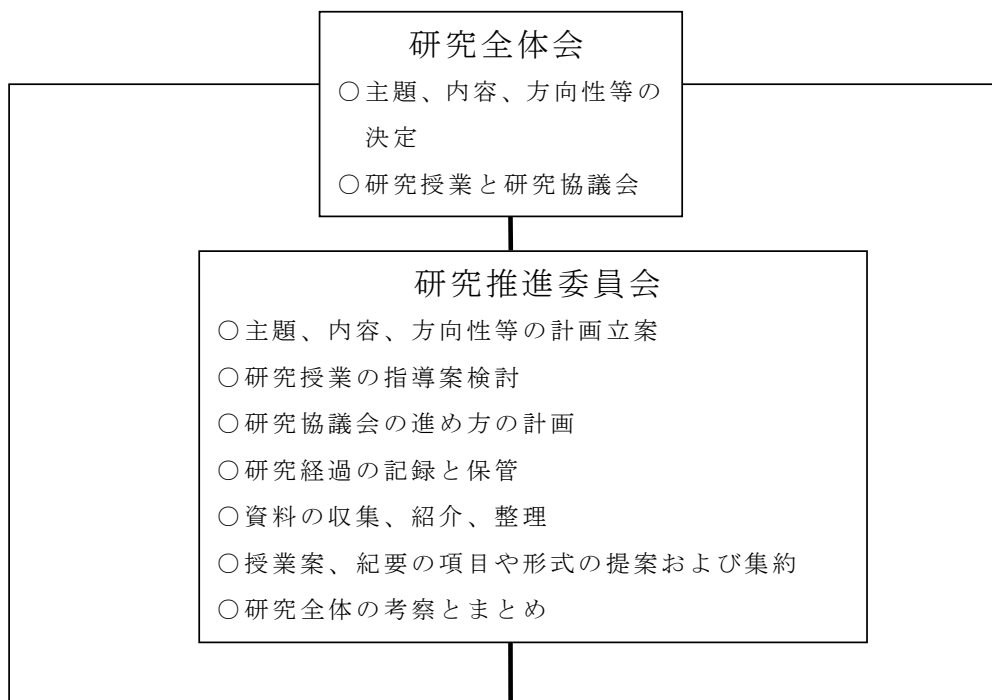
◇研究授業後に、分科会ごとに、研究の重点の成果と課題を話し合い、まとめたものを研究協議会で伝える。

◇研究授業は、各学年1回行う。

5. 研究経過

4/ 4(火)	研究推進委員会①	役割分担、研究主題、研究組織、研究計画
4/11(水)	研究全体会	研究の進め方の共通理解
4/25(水)	研究全体会	主題設定の理由・研究構想図
6/ 8(金)	研究推進委員会②	3年指導案検討
6/21(木)	第1回研究授業	第3学年 授業者 杉山抄祐里 単元名 体育科「忍者への道」(表現) 講 師 杉江修治先生(中京大学教授)
6/26(火)	研究推進委員会③	5年指導案検討
7/ 4(水)	第2回研究授業	第5学年 授業者 小泉祐子 単元名 国語科「新聞を作ろう」 講 師 藤井英子先生(渋谷区教育委員会教育指導教授)
9/ 4(火)	研究推進委員会④	2年指導案検討
9/19(水)	第3回研究授業	第2学年 授業者 渡辺有子 単元名 算数科「計算のしかたをくふうしよう」 講 師 杉江修治先生(中京大学教授)
10/ 4(木)	研究推進委員会⑤	1年指導案検討
10/19(金)	研究推進委員会⑥	4年指導案検討
10/22(月)	第4回研究授業	第1学年 授業者 石井優里 単元名 体育科「もうじゅうがりにいこう」(ボール投げゲーム) 講 師 齊藤浩雄先生(板橋区教育委員会指導室統括指導主事)
10/31(水)	第5回研究授業	第4学年 授業者 桜井正美 単元名 社会科「地図のひみつをさがそう」 講 師 高橋慎二先生(板橋区立前野小学校 副校長)
11/14(水)	研究推進委員会⑦	6年指導案検討
11/28(水)	第6回研究授業 指導室訪問	第6学年 授業者 荒木陽子 単元名 道徳 「お楽しみ会」 講 師 矢部崇先生(指導室長)、小池木綿子先生(指導主事)、臼田治夫先生(指導主事)、傳田学先生(指導主事)、中村幸男先生(START)、齋藤雅春様(板橋区教育委員会 教職員係)
2/22(金)	研究全体会	来年度に向けて

6. 研究組織



各学年・専科					
○分科会研究主題、児童像、内容、方法等の決定					
○授業研究の実践（授業案作成、事前授業、事後の考察）					
○分科会研究の実践、分析・考察、まとめ					
低学年		中学年		高学年	
松永・石井	渡辺・市川	杉山・後藤	櫻井	小泉	荒木・石岡
長田		合田・石山		石田	

Ⅱ．授業実践

1. 第 1 学年
2. 第 2 学年
3. 第 3 学年
4. 第 4 学年
5. 第 5 学年
6. 第 6 学年

○指導案

○研究協議・指導講評

○成果と課題

○資料

第1学年 体育科での実践

平成24年10月22日(月) 場所 体育館

1年2組 児童数27名

指導者 石井 優里

1. 単元名

「もうじゅうがりにいこう！」(6時間) ボール投げゲーム

2. 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

1) 態度

- ルールを守り、友達と楽しくゲームを行うことができる。
- 安全に気をつけて遊ぶことができる。

2) 思考・判断

- より正確に的に当てるために、工夫しながらボールを投げるができる。

3) 技能

- 的をねらって、ボールを投げるができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①きまりを守り、安全に気をつけながら、進んで活動に取り組んでいる。 ②友達の、的によく当たる投げ方を、取り入れようとしている。	①場に合った、よく当たる投げ方を考えている。 ②友達に、よく当たる投げ方を伝えることができる。	①場所に合う、色々な投げ方で投げるができる。 ②的をねらってボールを投げるができる。

3. 単元について

(1) 単元観 (単元の内容系統)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲーム】				【ボール運動】	
ボールゲーム 鬼遊び		ゴール型ゲーム		ゴール型	
		ネット型ゲーム		ネット型	
		ベースボール型ゲーム		ベースボール型	

(2) 運動の特性

1) 一般的特性

- ・ ボールを操作できる位置に動いたり、ねらったところにボールを投げたりする動きが楽しめる運動である。
- ・ みんなで話し合い、より正確に的に当てることを工夫できる運動である。

2) 児童から見た特性

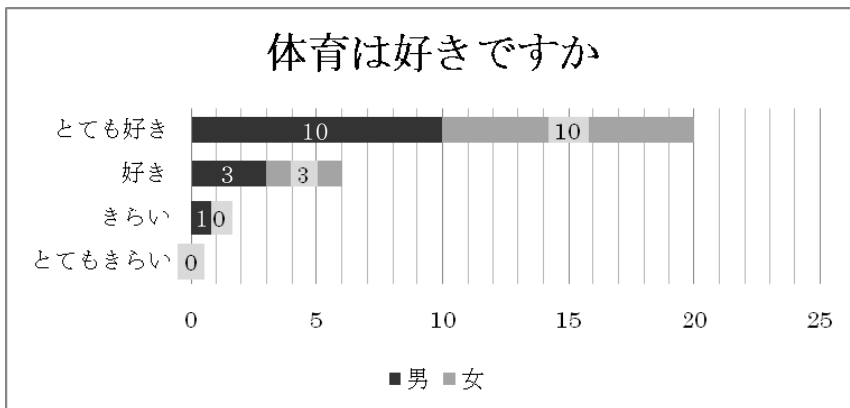
- ・ 的にボールを当てる楽しさを味わえるゲームである。
- ・ ルールが簡単で、どの子も楽しめるゲームである。
- ・ 自分たちの考えや工夫したことが成功すると楽しいゲームである。
- ・ 的にボールが当たらないとつまらないと感じてしまうゲームである。

本単元では、ボールだけではなく、いろいろなものを投げてみる経験をさせ、「投げる」ことは「気持ちいい」「おもしろい」という「楽しい」感覚につなげていきたい。たくさんの投げ方を体験し、最後には、投げ方を工夫をすることで、的に当たりやすくなることに気付かせていきたい。

(3) 意識調査（アンケート）と考察

実施日 9月26日(木) 対象人数 27名

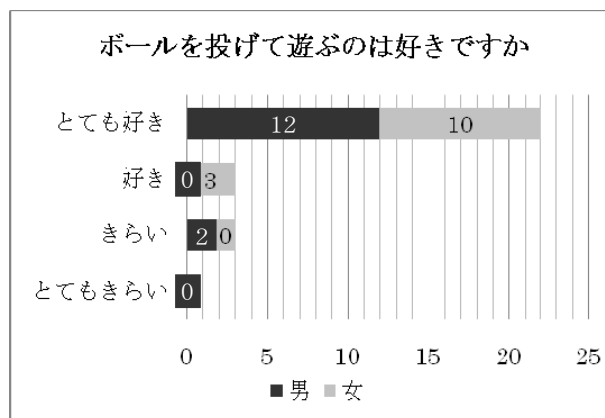
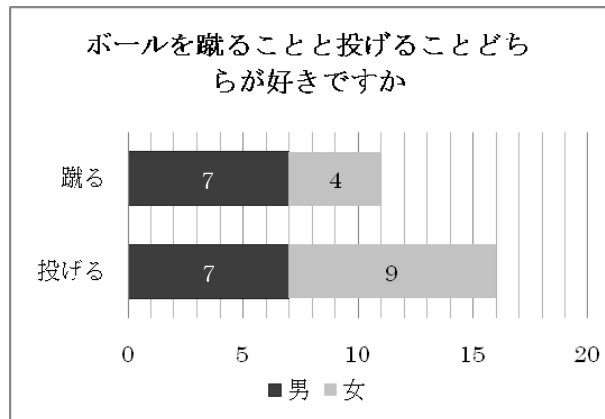
実施方法 質問紙法



単位（人）

体を動かすことが好きで、体育の授業をいつも楽しみにしている児童が多い。休み 時間には、ほとんどの児童が外で体を動かし、走ったり、ボール遊びをしたりしながら過ごしている。1 学期の運動会の表現運動では、体を思いきり動かして、曲に合わせて表現することを学習した。かけっこでは、まっすぐ、最後まで走り切ることを練習してきた。1 学期半ばから 2 学期にかけて行った水遊びでも、水の中にいる感覚を楽しみながら、検定で 1 つでも級を上げられるよう、努力をする児童が多くみられた。体育の授業での経験が、

児童の中で「楽しい」「面白い」という感覚につながり、今回の結果が出たと考えられる。どの運動でも、児童は「今よりも上手になりたい。」という向上心を持って授業に取り組んでいる。児童の意欲を生かしながら、今回のボール投げゲームも、「楽しい」と感じられる授業を展開していきたい。児童の体の大きさや力には個人差があるが、力の差を感じさせないように、場の設定やルールに工夫をして、活動を楽しめるよう工夫していきたい。



アンケートでは、ボールを「蹴る」と「投げる」では、投げることの方が好きな児童の方が多かった。しかし、休み時間の様子を見ても、まだ児童たちは「思い切り投げる」経験をしたことが少ないように思う。「蹴る」が好きな児童は「当たるのがこわいからける方が好き」と答えていた。

今回は初めてのボールゲームのため、まずはたくさんボールを投げる経験と、楽しさを十分に味わってほしいという思いから、「的当てゲーム」に焦点を当て単元を設定した。

4. 児童の実態

6月に行われた新体力テストでは、「ソフトボール投げ」では、男女共に都や全国の平均と比較すると、水準よりも下回る結果だった。しかし「クラスレク」や休み時間には、ボールを使ったゲームをやりたがる児童が多く、ボールに興味関心をもっている。使うボールは、当たってもいたくなく、手になじみやすい小さめのソフトバレーボールを好む。男女入り混じることに抵抗はなく、体の触れ合いや手をつなぐことも恥ずかしがらずに行うことができる。

他の授業でも、自分の考えを伝え合う時間があっても、表現力が乏しく、自分の気持ちを言葉で表現することが難しい児童もいる。しかし、なるべく動きを言語化していけるよう教師が積極的に声かけをしている。

まだ、文を書くことに時間がかかってしまったり、慣れていなかったりする児童が多いため、本単元では、個人の振り返りシートでは、マークに○をするだけのものにする。そのかわりに、ホワイトボードに今までの学習での気づきや振り返りを残し、クラスの振り返りとしていく。

5. 目指す児童像

簡単なきまりや活動を工夫して、運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身につけ、体力を養う。誰とでも仲良くし、健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。

(1) 自分の考えを伝える子

どのように投げたらよりの的に当たるのか、一人ひとりが自分の考えをもって課題に取り組んでほしい。今回は投げ方やフォームにはあまりこだわらず、児童たちから出るたくさんの投げ方を受け入れてあげたい。「このようになげたらいい。」という自分なりの投げ方を、具体的に友達に伝えられるよう、クラス全体で言語化を図っていく。

(2) 互いのよさを発見できる子

本時では、児童が友達の動きを見て、よりのに当たる投げ方を考えることができるように、3人1組の小グループを1つのグループとして活動を進めていく。本時では、「ボールとなかよしタイム」の中で「見る」時間を設定し、友達に、よりのに当たりやすい投げ方をアドバイスする時間を設定する。友達に教えてもらった投げ方で実際に投げてみたり、友達の良い投げ方を見付けることができたりして高め合えた児童やグループは、全体の場で賞賛し、価値付けしていく。教師自身が見本となり、友達の良い所を認め合える環境づくりをしていきたい。

6、主題にせまるための手だて

(1) 課題提示の工夫

○ホワイトボードの活用

授業時に本時の流れを把握できるように、授業の流れを確認し、提示する。児童から出た言葉や発見は、ホワイトボードに残し、次時の目標設定や活動に生かしていく。クラス全体が目的をもって活動を楽しむ手立てとして有効と考えた。

(2) 学習形態・話し合いの工夫

○少人数（3人1組）によるグループ編成

○友達を「見る」時間の設定

本時では、友達により的に当たりやすい投げ方を伝えるために「見る」時間を設定した。そこでは、友達の投げている様子をよく見て、より的に当たりやすくするためにはどうするかを考え伝えさせる。運動量と、児童の発達段階の実態から、有効な手立てとして3人1組の小グループを設定した。

(3) 振り返りの工夫

○個人の振り返り（ワークシート）

○全体での振り返り（ホワイトボード）

本時への成果の確認と次回への意欲化を図るため、毎時間必ず振り返りを行う。まず、個人の振り返りはワークシートで行う。しかし、まだ書くことに時間がかかってしまったり、自分の気持ちを文にすることに時間がかかってしまったりする児童が多いため、実態を配慮し、本時のねらいに迫ることができたかをマークするだけのものを活用する。

そして、全体で本時の振り返りをしていく。そこで出た新しい発見や、次時のねらいにつながる発言は、ホワイトボードに残しておく。評価は、評価計画に沿った観点をもとに、ワークシートを評価に生かしていく。

(4) その他の学び合いの工夫

○ゲームのルール設定

協同学習の定義に「学級のメンバー全員のさらなる成長を追求することが大事なことだと全員が心から思っただけで学習すること」「集団の仲間全員が高まることをメンバー全員の目標とする」とある。「学び合い・高め合い・認め合い・励まし合う」学習活動を目指していくために、今回「わくわくタイム」で行うゲーム「もうじゅうがりにいこう！」は、各チームの得点の合計を、クラスの点数とする。そしてその点数を次回の目標とし、再びゲームに挑戦する。クラス全体で、前回の点数を超えることを目標としてゲームを進めていく。

今回のゲームでは、全員の力を必要としていることを伝え、目標達成のために「ボールとなかよしタイム」では、友達と共によく当たる投げ方を見つけていけるよう指導してい

く。

また本時では、安全で、ねらったところに投げ、当たったことが分かる段ボールを使用する。

7. 学習過程

本単元 6 時間の学習過程の一覧を次ページに示す。

8. 評価計画

評価計画の内容、観点を次々ページに示す。

7, 学習過程

段階	つかむ			たのしむ		ひろげる		
	1	2	3	4	5【本時】	6		
学習内容	<p>あいさつ・準備運動・本時の流れ、めあての確認</p> <p>【オリエンテーション】</p> <p>ボール投げゲームに取り組むことを知る。</p> <p>3, チームを編成発表する。</p> <p>☆みじかなものを、投げてみよう。</p> <p>【わくわくタイム】</p> <p>いろいろなものをなげてみよう①</p> <p>～腕や体を使って～</p> <p>ぞうきん(まるめて)</p> <p>新聞紙(まるめた)</p> <p>かみひこうき</p> <p>かみふうせん</p>	<p>☆色々なボールをさわってみよう。投げてみよう。</p> <p>【わくわくタイム】</p> <p>○たくさんのボールにふれさせ、投げる感覚をつかませる。</p> <p>いろいろなボールをなげてみよう</p> <p>【ボールとなかよしタイム】</p> <p>いろいろなボールをなげてみよう②</p> <p>○近くに投げる、速くに投げる</p> <p>投げ方を見つけさせる。</p>	<p>☆色々な投げ方を知ろう。</p> <p>【わくわくタイム】</p> <p>○前時の振り返りから出た色々な投げ方があることを知る。</p> <p>(上から、下から、両手、片手、など)</p> <p>【ボールとなかよしタイム】</p> <p>もうじゅうの振りへいこう</p> <p>もりのむこうをねらえ</p> <p>わくわくボーリング</p> <p>はちのオワールド</p>	<p>☆的に向かって、たくさんの投げ方に挑戦しよう。クラスで高い得点をねらおう。</p> <p>【ボールとなかよしタイム】</p> <p>もうじゅうがあらわれた</p> <p>もうじゅうにむかって色々な投げ方でボールを投げる。</p> <p>【わくわくタイム】</p> <p>もうじゅうがりにいこう</p>	<p>☆クラスみんなで前回よりも高い得点をねらおう。そのために、もうじゅうによく当たる投げ方を見つけよう。</p> <p>【ボールとなかよしタイム】</p> <p>○前時までの学習を生かしながら、的をねらう。もうじゅうがあらわれた的に向かって工夫した投げ方でボールを投げる。</p> <p>2.【わくわくタイム】</p> <p>もうじゅうがりにいこう</p>	<p>☆クラスみんなで前回よりも高い得点をねらおう。そのために、もうじゅうによく当たる投げ方を見つけよう。</p> <p>【ボールとなかよしタイム】</p> <p>○前時までの学習を生かしながら、的をねらう。もうじゅうがあらわれた的に向かって工夫した投げ方でボールを投げる。</p> <p>2.【わくわくタイム】</p> <p>もうじゅうがりにいこう</p>	<p>☆クラスみんなで前回よりも高い得点をねらおう。そのために、もうじゅうによく当たる投げ方を見つけよう。</p> <p>【ボールとなかよしタイム】</p> <p>○前時までの学習を生かしながら、的をねらう。もうじゅうがあらわれた的に向かって工夫した投げ方でボールを投げる。</p> <p>2.【わくわくタイム】</p> <p>もうじゅうがりにいこう</p>	
教師の支援	<p>○投げる感覚を身に付けさせる。</p> <p>○ものや目的によって、力の強弱や投げ方を変える必要があることに気付かせていく。</p> <p>☆投げる方向を決め、安全に活動を進める。</p>	<p>○目的にあった投げ方を、全体で話し合いをさせる。</p> <p>○話し合いにより、子供から出た言葉を「いいところはつげんボード」に載せていく。</p> <p>○友達の見えを取り入れてみるよう指導していく。</p>	<p>○いくつかの投げ方(下投げ、横投げ)も認める。</p> <p>○3つの環を設定しローテーションをさせる。</p>	<p>○前時に出た投げ方を思い出させながら、ねらうものにあった投げ方を選ばせる。</p> <p>○的に向かってなげるときには、どんなことに気を付ければいいのかをグループで考えさせる。</p>	<p>○ボールとなかよしタイムでは、もだちの的によく当たる投げ方を発見させる。</p> <p>○わくわくタイムでは、クラス全体で前回の得点を目標に得点をねらわせる。</p>	<p>○ボールとなかよしタイムでは、友達のためによく当たる投げ方を発見させる。</p> <p>○わくわくタイムでは、クラス全体で前回の得点を目標に得点をねらわせる。</p>	<p>○ボールとなかよしタイムでは、友達のためによく当たる投げ方を発見させる。</p> <p>○わくわくタイムでは、クラス全体で前回の得点を目標に得点をねらわせる。</p>	
4, 整理運動・学習の振り返り(本時のめあてに対して、次時への目標)・あいさつ								

8、評価計画

評価の観点	評価計画					
	1	2	3	4	5	6
態度	観点 ①	① ②		①		
	いつ 方法 観察	B 観察・学習カード		AB 観察・学習カード		
思考・判断	観点 ①		①	① ②	②	①
	いつ 方法 観察		BC 観察・学習カード	ABC 観察・学習カード	ABC 観察・学習カード	ABC 観察・学習カード
技能	観点 ①	①	① ②	②	①	②
	いつ 方法 観察	B 観察・学習カード	BC 観察・学習カード	ABC 観察・学習カード	B 観察・学習カード	B 観察・学習カード

A ボールとなかよしタイム

B わくわくタイム

C ふりかえり


評価の観点	評価規準	評価方法
態度	① きまりを守り、安全に気をつけながら活動に取り組むことができる。 ② 友達の、的によく当たる投げ方を、取り入れようとしている。	観察 学習カード
思考・判断	① 場に合った、よく当たる投げ方を考えている。 ② 友達によく当たる投げ方を伝えることができる。	観察 学習カード
技能	① 場に合った色々な投げ方で、投げるることができる。 ③ 的をねらってボールを投げるることができる。	観察 学習カード

9. 本時の指導 (5/6)

(1) 本時の目標

的をねらってボールを投げることができ、よく当たる投げ方を、友達に伝えることができる。

(2) 展開

学習活動と児童の反応 (○)	学習形態	支援や手だて(◇) 評価(☆)
1. 集合・挨拶をする。 2. 準備運動をする。 3. 本時のめあてと学習内容を確認する。	全体	◇主運動でよく使う部位がほぐれるよう準備運動を行わせる。 ◇前回までの学習活動を振り返らせる。
クラスみんなで ぜんかいよりも たかいとくてんを ねらおう。 そのために、もうじゅうに よくあたる なげかたを ともだちに つたえよう。		
4. ボールとなかよしタイム 「もうじゅうがあらわれた！」① ○ <u>たおす</u> 児童：今までの学習を生かし、いろいろな投げ方で的をねらう。 ○ <u>直す</u> 児童：安全に気を付けながら倒れたものを速やかに直す。 ○ <u>見る</u> 児童：たおす児童の動きを見ながらによく当たる投げ方をたおす児童に伝える。 *場の設定は資料1参照。	グループ	◇投げる児童には、見る児童が伝えている投げ方をやってみよう声かけをする。 ◇安全に気を付けながら倒れたものを速やかに直すことを指導する。 ◇もっとどうしたら、まともに当たりやすくなるのかを、児童なりの言葉で伝えるよう指導をする。 伝えることができていない児童には、一緒に動きを言語化し、友達に伝えられるよう支援をする。 ◇場に合った投げ方を考え、それを伝えている児童を賞賛する。 ☆良く当たる投げ方を見つけ、友達に伝えている。(思)
		
このときは、自分のよく当たる投げ方を見つけようとしている児童が多くいた。		

5. 話し合いをする。

全体

◇よく当たる投げ方を伝え合えるチームを話し合いの場で紹介をする。

◇全体の話し合いの後に、さらに伝えることができるようになったグループを賞賛する。



上から下にむかって投げたら良かった。

教えてもらった投げ方は、当たらなかったけど、投げやすかった！

6. 「もうじゅうがあらわれた！」

②

グループ

◇「もうじゅうがあらわれた！」で友達に教えてもらった投げ方を生かしてみるよう指導する。

3グループ



☆的をねらってなげることができる。(技)



1回目よりも活発に意見交換が行われ、友達の投げ方に挑戦してみる児童が増えた。

7. 【わくわくタイム】

「もうじゅうがりにいこう！」

	<p>体を使って、上から片手で投げると当たりやすいよ！</p> <p>クラス全員で、前回よりも高得点をねらうことを目標にしているため、同じチームだけではなく、他のチームを応援し、投げ方を教えあう様子が見られた。</p>	
<p>*場の設定は資料1参照。 1つの場×3グループ</p>		
<p>8. 整理運動をする。</p>	<p>グループ</p>	<p>◇運動で使った部位をよくほぐすようにする。</p>
<p>9. 振り返りをする。</p>	<p>個人 全体</p>	<p>◇本時のめあてに戻り、達成しているか振り返る。 ◇今日試してみたことを振り返る。 ◇友達のよかったところ、自分のよかったところを振り返る。</p>
	<p>自分なりの考えをもち、友達につたえられた児童は「できた」に丸をつけることができていた。</p>	

10. 研究協議・指導講評

(1) 研究協議

1) 課題提示の工夫について

- ・投げ方のポイントを言語化し、おさえていた。
- ・めあてがわかりやすかった。
- ・穴埋め式で提示したことにより、子供たちの頭にめあてがしっかりと入っていた。

2) 学習形態・話し合いの工夫について

- ・練習のグループ編成は良かった。(3人はちょうど良い)
- ・役割分担がしっかりとしていた。一人一人に役割があったため、子供がいきいきとしていた。
- ・1回目より2回目の方が、アドバイスが進んでいた。
- ・得点についてより細かいルール設定が必要である。
- ・「いい投げ方」という表現では、できない子にとっては難しい課題なのではないか。
- ・メンバーによってはうまくアドバイスできていないグループがあった。

3) 振り返りの工夫について

- ・マークだけのものは実態に合っている。
- ・判断基準が難しい。(今後できるようになることを期待)
- ・アドバイスすることなのか、自分が当てられるようになることなのか、焦点を絞って振り返りをさせたほうが良い。

4) その他の学び合いの工夫について

- ・「クラスの合計点をあげよう」としたことにより、全体で応援したり、アドバイスをしたりし合っていた。
- ・その場に合った投げ方を、担任から例示することで、子供たちの技能がより上がったかもしれない。

(2) 指導講評 (板橋区教育委員会指導室統括指導主事 齊藤浩雄先生)

○良かった点

- ・準備、片付けもすばやく、子供たちがやる気に満ちあふれていた。
- ・準備運動を全員がしっかりと行っていた。教師との信頼関係が大変良かった。
- ・友達のことを「見る」時間を作ったことが良かった。見ることはとても大切である。

○改善点

- ・「友達に伝える」ことをねらいとするよりも、「楽しく」「力いっぱい」「仲良く活動する」ことをねらいとした方が良かった。

- ・振り返りカードのポイント：楽しく、仲良く、元気いっぱいを入れた方がよい。
- ・運動量はどうだったか。体力を養わせるためには、準備運動の後で、個々のボール運動を入れれば良かった。
- ・競争型＋達成型のゲーム設定にした方が体育の特性に合った授業になった。
- ・低学年には易しい運動を：自分たちの得点も意識させると良い。より良い動きを共有するために、動きのポイントを押さえる。動き方に気付くように言葉掛けを具体的にする。

11. 成果と課題

(1) 成果

- ・今回のゲームでは敵のいない「的当てゲーム」に焦点を当てたことで、投げることだけに集中でき、両手、片手、上から下からなど、いろいろな投げ方を挑戦し、身に付けることができた。
- ・ゲームとして、チーム対抗で競うことはなかったが、子供たちも高いモチベーションで授業に臨んでいた。
- ・体を使って、友達にどんな投げ方がいいのか表現しながら自分の考えを伝えられている子が多くいた。また友達の動きを「見る」時間を設定していたため、自分のことだけでなく、友達の動きをよく見て、アドバイスできている子が多くいた。
- ・全体の「話し合い」を挟んで、ゲーム①を2回行ったことで、2回目のゲーム中に、伝え合いがより活発になったので、効果的だった。

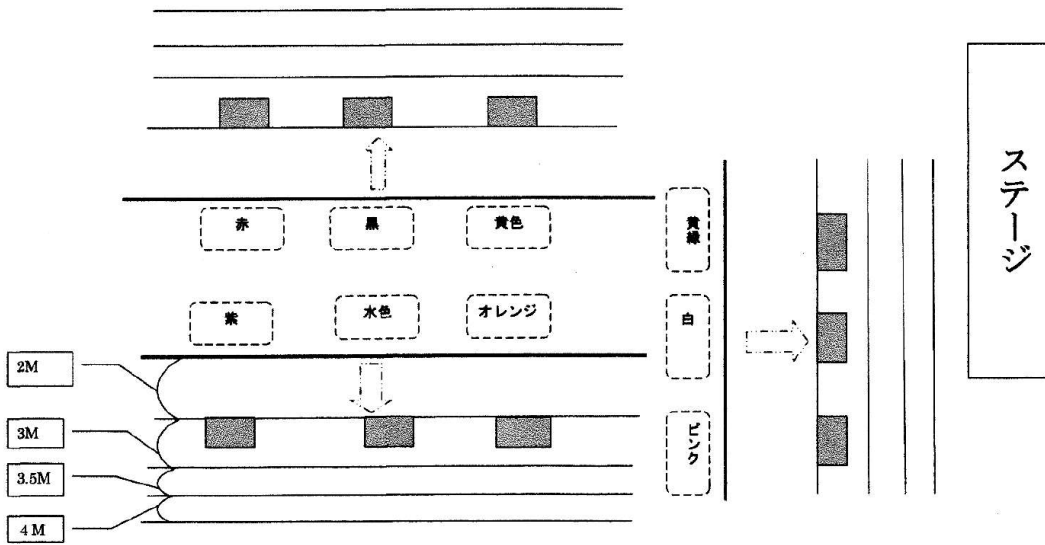
(2) 課題

- ・「ゲーム」の特性である勝敗を受け入れる、という視点が欠けていた。協同学習に重点を置き、「クラス全体」で達成することを学習課題にしたが、体育としての専門性を授業の中にもっと取り入れていく必要があった。
- ・今回の授業では、1時間の中での運動量が少なかった。もっと運動量を多くできるゲームや場の設定が考えられた。ゲームのルールを一つ変えるだけで、もっと運動量を増やすことは可能だった。今回のゲームは、前回の得点を超えることが目標だったため、ルール変更ができず、運動量を増やすことが難しかった。今後授業を考えていくときに注意して考えていく。
- ・課題として「良くあたる投げ方」というのは、子供たちにとって曖昧な表現であり、適当な学習課題ではなかった。学習課題は、授業を振り返ったときに達成できているのが振り返られるような明確なものである必要がある。

資料 1 2つの場の設定

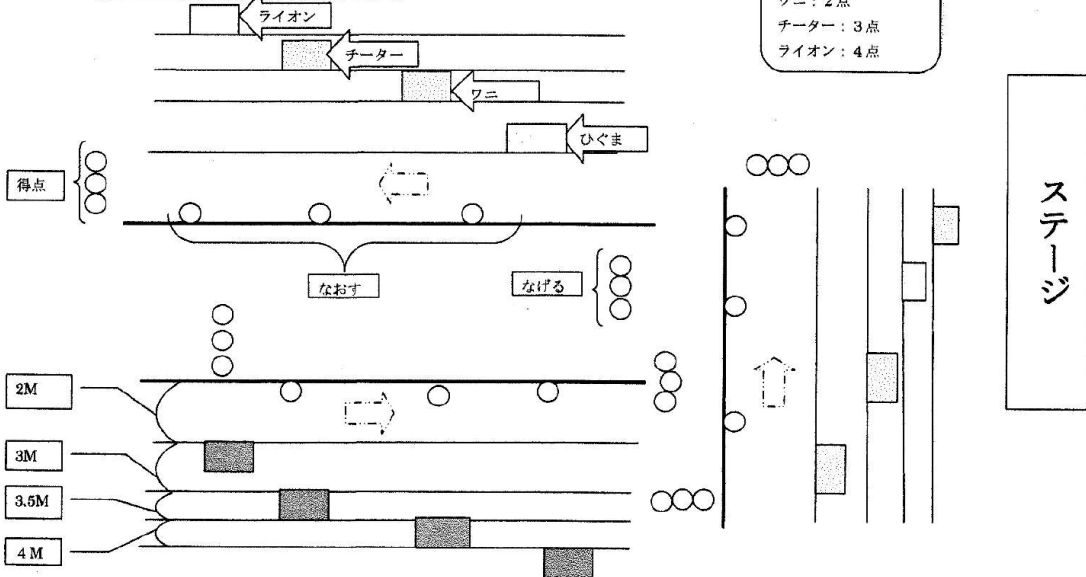
場の設定①

ボールとなかよしタイム「もうじゅうがあらわれた！」



場の設定②

わくわくタイム「もうじゅうがりにいこう！」



もうじゅうがりにいこう！①

なまえ _____

☆いろいろな ものを なげて みよう☆

<ふりかえり>

おもいきり ものを なげることが できましたか。	☺	☹
あんぜんに きをつけて じゅぎょうを できましたか。	☺	☹



もうじゅうがりにいこう！②

なまえ _____

☆ボールを いろいろな なげかたで なげて みよう☆

<ふりかえり>

どおくに なげるために くふうすることが できましたか。	☺	☹
くふうしたことを ともだちに つたえられましたか。	☺	☹



もうじゅうがりにいこう！③

なまえ _____

☆いろいろな なげかたに ちょうせんしよう☆

<ふりかえり>

いろいろな なげかたに ちょうせん しましたか。	😊	😞
じぶんの とくいな なげかたを みつけましたか。	😊	😞



もうじゅうがりにいこう！④

なまえ _____

☆まどにむかって、たくさんのなげかたにちょうせんしよう。クラスでたかいとくてんをねらおう☆

<ふりかえり>

もうじゅうを ねらって、ボールを なげられましたか。	😊	😞
ともだちの じょうずな なげかたを はっけん できましたか。	😊	😞



もうじゅうがりにいこう！⑤

なまえ_____

☆クラスみんなでぜんかいよりも たかいとくてんをねらおう。

そのために、もうじゅうによくあたるなげかたを、ともだちにつたえよう☆

<ふりかえり>

もうじゅうをねらって なげられましたか。	☺	☹
よくあたる なげかたを ともだちに つたえられましたか。	☺	☹



もうじゅうがりにいこう！⑥

なまえ_____

☆クラスみんなでぜんかいよりも たかいとくてんをねらおう。

そのために、もうじゅうによくあたるなげかたを、ともだちにつたえよう☆

<ふりかえり>

もうじゅうをねらって なげられましたか。	☺	☹
よくあたる なげかたを ともだちに つたえられましたか。	☺	☹



第2学年 算数科学習指導案

平成24年9月19日（水）

2年1組 児童数27名

指導者 渡辺 有子

1. 単元名

「計算のしかたをくふうしよう」

2. 単元の目標

(1) 目標

加法の結合法則、簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して、加減計算についての理解を深め、それを用いる能力を伸ばす。

(2) 観点別評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解
・計算法則や数の見方や構成を活用するよさに気付き、計算の仕方を工夫しようとする。	・（ ）の中を1つの数とみて、式の意味を考え表現したり、場面を式に表したりすることができる。	・3口の数の加法計算について、結合法則などを基に、工夫して計算することができる。 ・簡単な加減の暗算ができる。	・加法の結合法則や（ ）の使い方を理解する。

3. 単元について

(1) 教材について

第2学年 A. 数と計算

(2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。

ア. 2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

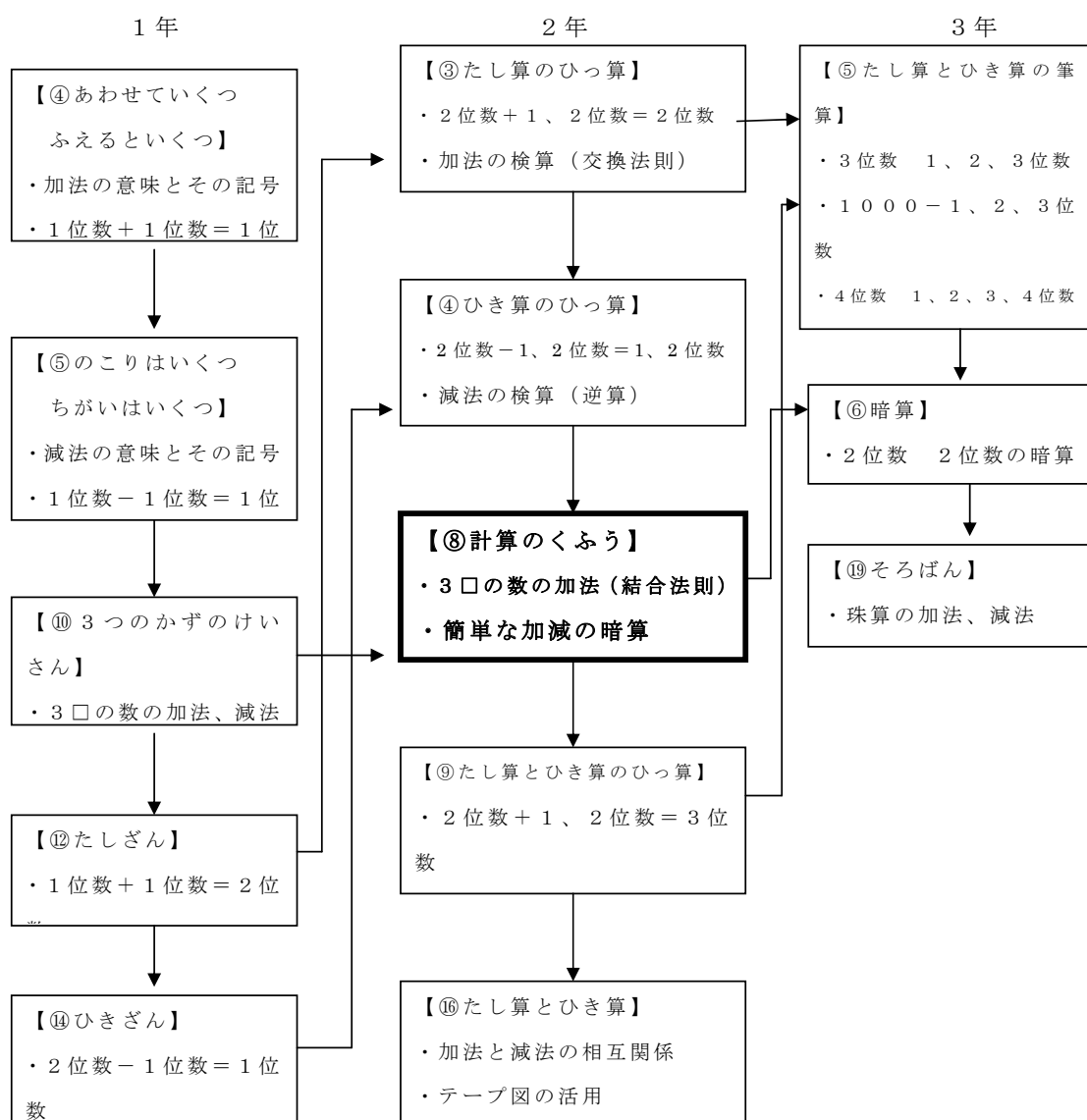
ウ. 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

加法、減法については、第1学年から計算の意味の理解と計算の仕方を学習している。第2学年になって、第3単元「たし算のひっ算」で検算の仕方と関連して加法の交換法則

を学習し、第4単元「ひき算のひっ算」で減法の検算を逆算の加法で行うことを学習した。本単元では、こうした学習を背景にして、加法の結合法則や、簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して、加減計算について理解を深め、それを用いる能力を伸ばすことをねらいとしている。

加法の結合法則は、単にきまりを見つげるだけでなく、そのきまりを使って工夫すると、計算が簡単になる場合があることを、具体的な計算を通して気付かせるなど、計算法則を用いるよさを味わわせていきたい。また、第2時では前時までの学習を基に、問題場面を、かっこを使った1つの式に表すだけでなく、表された式を言葉で表すことを通して、算数の言語である式を読む力を伸ばし、数学的な思考力・表現力を高めていく。

(2) 本単元の学習の関連と発展



4. 目指す児童像（協同学習の視点から）

（1）自分の考えを伝える子

1年生の時は、自分の考えをもつことを第一に学習活動を進めてきた。また、伝え合いは二人組での活動が多かった。2年生になり、自分の考えを明確にもち、相手に伝えようとする児童が増えてきた。また、自分の考えを図や絵に表して、全体に伝えることができる児童も少しずつ増えてきた。しかし、自分の考えをもつことができても、それをどのように伝えたらよいのか戸惑っている児童もいる。

そこで、日常の学習場面では、まず自分の考えをもつ時間を十分設定し、それを相手に分かるように伝えるにはどのような方法があるのかを児童とともに探していき、クラス全体が「できるようになろう。」という意識をもって、高まっていけるようにしたい。また、入学当初から「勉強はまちがってもいいんだ。」という意識をもたせてきたので、さらに「安心して意見が言えるクラス」づくりを目指していきたい。

本単元では、伝え合うグループを3人組にして、グループの中で役割を分担し、話し合いがしやすいようにした。また、司会の児童には「話し合いの進め方」のカードを用意し、話し合いがスムーズにできるようにしていきたい。

（2）相手のよさを発見できる子

昨年度、入学当初は、いろいろな幼稚園や保育園から集まっているクラスなので児童の気持ちはばらばらだった。学級集団としてのまとまりができ始めたのは2学期中頃からだった。困っている子がいると声をかけてあげたり、頑張った子には自然と拍手が起こったりと優しい行動ができるようになった。2年生になり、お互いのことがよく分かり始めたので、「〇〇さんは〇〇が上手だ。」「〇〇くんは〇〇がすごい。」などお互いのよさを学習場面だけでなく、生活の場面でも認め合えることが多くなってきた。

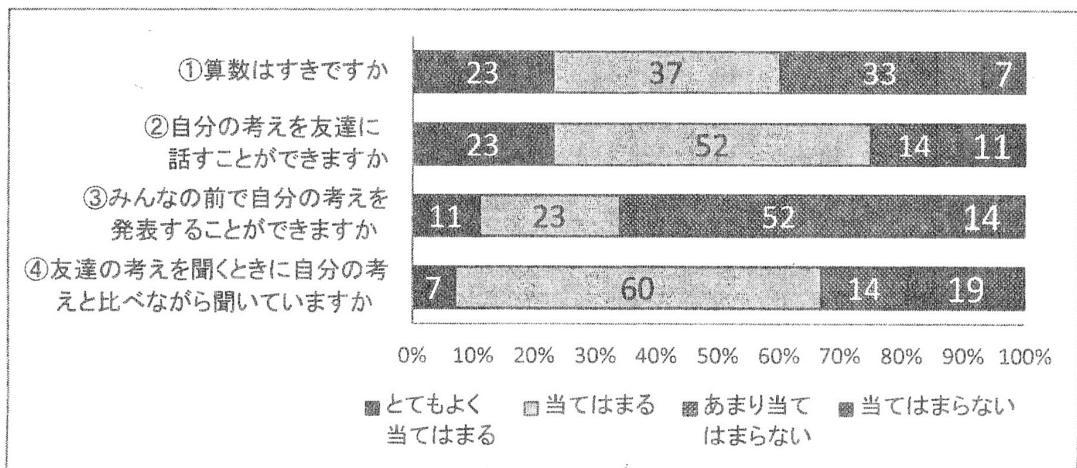
本単元では、友達の考えをしっかりと聞き、誰のどんな考えがよいか、よく分かるかを見つけ、クラス全員ができるようになったと実感させていきたい。

5. 児童の実態

算数に関する意識調査及び、レディネステストの結果は次ページの通りである（平成24年8月実施。調査人数27名）。

本学級の児童は、普段から真面目に授業に取り組み、課題も最後までやり遂げようとしている。しかし、意欲はあまり高くなく、受動的な気持ちは強い。算数の授業も真面目には学習しているが、意欲的には今ひとつの感がある。このことは、意識調査の「算数は好きか」という質問に対し「とてもよく当てはまる」「当てはまる」と答えている児童が60%とあまり多くないことから伺える。

「自分の考えを友達に話すことができるか」という質問に対しては、75%の児童が「とてもよく当てはまる」「当てはまる」と回答している。これは、昨年1年生での学習目標で



あった「自分の考えをもち、ペアで伝え合う」ことの成果だと思う。

しかし、反面「みんなの前で自分の考えを発表できるか」という質問に対しては、「とてもよく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は 33%だけで、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童は 67%もいる。みんなの前で発表することは、苦手と思っていることが伺える。2年生になり恥ずかしさが出てきて、問題の答えは分かっているが、人前での発表に対して苦手意識をもっている児童が多いようだ。

「友達の考えを聞くときに自分の考えと比べながら聞いているか」という質問に対しては、「とてもよく当てはまる」「当てはまる」と回答した児童は 67%いることから、自分の考えをもち、人の考えとの比較をしながら聞くという思考力がついてきていることが分かった。

本学級の児童は、「みんなの前で発表することは苦手である」が「自分の考えをもち、友達に伝え、友達の考えと自分の考えを比較して聞いている」ことが分かった。

本単元についてのレディネステストの結果は、次の通りである。

	問題（解答）	正答率	主な誤答例	考察
3 □ の 加 減	1. 計算をしましょう。			
	① $3 + 7 + 6 = 16$	96%	14	3口の計算のはじめの数を見落としてしまつての間違いが多かつた。 一人の児童は加減計算がまだ身に付いていない。 3口の計算は、ほとんどの児童が正しくできている。
	② $6 + 4 + 7 = 17$	96%	3	
	③ $15 - 5 - 4 = 6$	93%	1	
	④ $13 - 3 - 5 = 5$	96%	2	
⑤ $10 - 7 + 2 = 5$	96%	9		

2 位 数 の 構 成 を 基 に 減 し 計 算	2. 計算をしましょう。 ① $50+30=80$ ② $15+60=75$ ③ $3+47=50$ ④ $58-50=8$ ⑤ $79-9=70$ ⑥ $34-14=20$	100% 96% 96% 85% 93% 85%	71 40 2、18 71、78 2、24、 29、48	①～③の加法の計算はよくできている。繰り上がりを忘れていた児童がいた。 ④～⑥の減法の計算は位を見間違えたり、0を付け忘れたり、足してしまったりの間違えがあり、加法より正答率は低い。
3 口 の 立 式	3. あきさんは、赤い色紙を5まい、青い色紙を2まいもっています。黄色の色紙を④まいもらいました。色紙はぜんぶで何まいになりましたか。 しき $5+2+4=11$ こたえ 11まい	89%	$5-2=3$ $5+2=7$ $2+4=6$	立式の正答率は高かった。 出てきた数字の順に立式している児童がほとんどであった。 本時でも出てきた数字の順番に立式することが予想される。

本学級の児童は、算数の学習活動に真面目に参加できる。しかし、なかにはこれまでに学習した数を扱う技能が定着しておらず、計算などで特に配慮が必要な児童がいる。自信のある問題では進んで発表することができる児童は多いが、根拠を説明するとなると、消極的になる児童も目立つ。発表や説明の仕方が分からずに、戸惑う児童も多い。

レディネステストからは、3口の加減問題は9割以上の児童が正解している。2位数の数の構成を基にした加減計算でも8割以上の正解率となっている。簡単な数字(1桁の数字)の3口の立式では9割の児童が正答している。また、出てきた数字の順に立式している。

そこで、本単元では、具体的な場面を通して問題に取り組ませながら、式とことばの式を関連付けて考えさせることを通して、かつこの意味や用い方を理解させ、3口の加法の計算順序を自分なりの理由を考えて説明させたい。また、計算のきまり(加法の交換法則や結合法則)についても気付かせ、なぜそれがよいのか考えさせ、自分の言葉で表現できるように発表の仕方を示しながら指導していきたい。そして、考えを交流することによって、自分の考えに自信をもったり、違う考えに気付いたり、友達ができるように助けたり

して、自分が分かり、みんなができるように自分が役に立つことがクラスを高めることに繋がることを体感させたい。

6. 主題にせまるための手立て

(1) 課題提示の工夫

- ・単元の全体計画に各時間の学習課題を示し、本時の学習の流れを提示することで、児童が学習の見通しをもって、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・1時間ごとに明確な課題を設定することで、クラスの児童全員がどのように取り組んだらよいのか、どんな成果を出したら学習したことになるのかがわかり、自ら学習に参加することができるようにする。

(2) 学習形態・話し合いの工夫

- ・自分の考えを3人のグループで伝え合う。友達の考えと比べて、同じところ、違うところを見つけられるようにする。
- ・グループで話し合っただけの考えをひとつにまとめ、考えをホワイトボードに式や言葉・図で書く。
- ・話し合いでは、メンバー全員に役割を割り振り、責任を果たすことで、話し合い活動の意欲づけにつながるようにする。
- ・話し合いをスムーズに進めるために、司会の児童に「話し合いの進め方」カードを用意し、まとめ係の児童には「まとめ方」カードを用意する。
- ・グループの考えを誰でも発表できるようにすることで、学び合い、考えを深めることができるようにする。
- ・全体での話し合いは、開いたコの字型にすることで、「意見はクラスみんなに伝えている」「クラスみんなが聞いているよ」という意識を高める。

(3) 振り返りの工夫

- ・本時の課題が達成できたかどうか、友達のどんな考えがよかったか、クラス全員が高まったかを、毎時間の学習の最後に振り返りカードに記入することで、自分自身が振り返り、本時の学習の定着と次時に意欲がもてるようにする。また、クラス全員の意欲も高められるようにしていきたい。

(4) その他の学び合いの工夫

- ・クラス全員が「できるようになろう。」という意識を高め、達成感を味わわせるために「みんながせつ明できるよ！」カードを作って、毎時間グループの3人がグループの意見を説明することができたかを確認する。(できたらシールを貼る。)シールがクラスの児童数分(27枚)集まったら、「クラスの宝の木」に実がなるということをして、

クラスみんなが高められ、クラスの中の自分の存在感が実感できるようにする。

7. 指導計画（4時間扱い）

時	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 $15 + 40 + 30$ の計算の仕方を考える。 加法では、たす順序を変えても答えは同じになることをまとめる。 () の使い方を知り、それを使って、3□の数の加法計算をする。
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量関係をとらえ、() を用いて3□の加法の式を立てる。 () を用いた式から考えを読み取る。
3	<ul style="list-style-type: none"> $26 + 7$ の計算を加数分解や被加数分解で暗算する。 加法の暗算練習に取り組む。
4	<ul style="list-style-type: none"> $42 - 7$ の計算を工夫して暗算する。 減法の暗算練習に取り組む。

8. 本時の指導（2/4）

(1) 目標

- 3□の数の加法の場面を() を用いた式に表すこと、() を用いた式から考えを読み取ることができる。
- 自分の考えを伝え合い、グループの考えを誰もが発表できるようにする。

(2) 展開

学習活動と児童の反応 (○)	形態	支援や手だて (◇) 評価 (☆)
1. 前時の学習を振り返る。	全体	◇ () は、ひとまとまりの数を表すこととことばの式を確かめさせる。
2. 本時のめあてと学習の流れをつかむ。	全体	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> () をつかって、1つのしきにあらわそう。 グループの考えをだれもがせつ明できるようにしよう。 </div>		
3. 問題をよく読んで意味を理解する。	全体 個人	◇問題の意味がよく分かるように場面の絵を用意する。 ◇さらに問題の文意がよく分からない児童には、ことばのカードを用意して説明する。

校ていで、1年生が7人と2年生が12人あそんでいます。2年生が8人きました。校ていには、みんなで何人いますか。

()を使って1つの式に表しましょう。考え方をことばの式や図で表しましょう。

4. 問題に取り組む。

() を使って1つの式にする。

考え方をことばの式や図で表す。

○ $(7+12) + 8 = 27$

(はじめにいた人) + あとからきた人

○ $7 + (12+8) = 27$

1年生の人数 + (2年生の人数)

5. 伝え合う。

(1) 3人組で考えを交流し、グループの考えをまとめる。



わたしたちのグループの考えを言えるように練習しよう。
うん、練習しよう!

個人

☆ () を使って立式したり、ことばの式や図で考え方を表そうとしたりしているか。

グループ (3人組)

◇話し合いを円滑にするためにグループの中で役割を分担させ、司会者には「話し合いの進め方」カードを、まとめ係には「まとめ方」カードを用意する。

わたしの考えは、1年生と2年生に分けて考えました。式は $7 + (12+8)$ になりました。

◇グループで1つ(または、2つ)の考えをホワイトボードに書かせる。

◇グループの考えを誰もが発表できるようにするために話し合いの時間を確保する。

☆自分の考えと友達のことを比べてグループの考えをまとめ、誰もが発表できるようにしているか。

(2) グループの考えを全体に発表する。

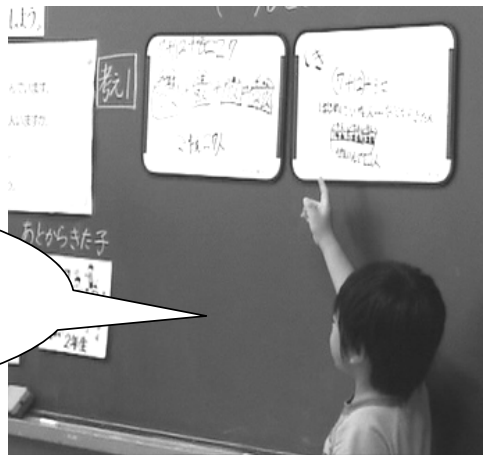
全体

◇クラス全体で考えを受け止めているという意識をもたせるために、付け加える意見、同じ意見、違う意見など聞いている児童に自分の考えの意思表示をさせる。



ぼくたちの考えは、式は $7+(12+8)$ となって、2年生は20人、はじめにいた1年生は7人、全部で27人になりました。

ぼくたちの考えた式は、 $7+(12+8)$ になって、ことばの式は「はじめにいた人」+「後からきた人」です。



6. 適応問題に取り組む。

個人

() を用いた式から考えを読み取る。

◇机間指導して、今日の学習が定着したかを確認する。

まことさんは、赤い色紙を15まい、青い色紙を14まいもっています。青い色紙を6まいもらいました。

色紙はぜんぶで何まいになりましたか。

下のしきを見て、どのように考えたかをことばのしきで書きましょう。

① $(15+14)+6=35$

{② $15+(14+6)=35$ }

○ ① (はじめにもっていた色紙) + もらった色紙

グループ

◇グループで教え合うようにさせる。

{○②赤い色紙+ (青い色紙)} 7. 振り返りをする。	(3人組) 個人全体	◇自分、友達、クラスについて振り返り、次時への意欲に繋げる。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○○さんのグループの図がわかりやすく、よかったです。</p> <p>○○さんの考えが1年生と2年生に分けていたので、よく分かりました。</p> </div>		

本時の流れ

1. 前の学しゅうをふりかえる。
2. 「今日のめあて」と「学しゅうのながれ」をたしかめる。
3. 問だい1. をしっかり読んで、とりくむ。〈ひとりで〉
4. つたえ合う。
 - (1)〈グループで〉 考えをまとめる。
だれもがせつ明できるようにする。
 - (2)〈ぜんたいで〉
5. 「たしかめ問だい」にとりくむ。 〈ひとりで〉
グループで教え合う。
6. ふりかえりをする。

9. 研究協議・指導講評

(1) 研究協議

1) 課題提示の工夫について

- ・前時に学習したことを児童がよく覚えていたので、前時の振り返りから本時の課題に上手につながっていった。
- ・初めに絵を黒板に貼りつけながら問題を話したので、児童が集中し、よく理解できる効果的な手立てになった。また、「考え方を言葉の式や図で表そう。」という提示があったので、児童が考えるときのよい手立てになり活用した。

2) 学習形態・話し合いの工夫について

- ・3人のグループで話し合うのは、2年生の児童にとって適切だった。また、「司会者・まとめ係・ボードに書く係」と役割を与えることで、時間を無駄にすることなく話し合いができていた。
- ・「話し合いの進め方カード」や「まとめ方カード」を児童が上手に使っていて、スムーズに話し合いができていた。また、自分の考えを友だちに分かってほしいという意識

で、自分の考えを書いた用紙を見せながら説明をしている姿勢に感心した。

- ・全体での話し合いはコの字型にしている、新鮮でよかった。
- ・「話し合いの進め方カード」に「〇〇さんの考えは正しいですか。」ということばがあったが適切だろうか。深まっていたグループもあれば、そうでないグループもあった。難しいのでは・・・。
- ・話し合いの内容が難しかったのかなと思ったが、まだ低学年なので、今後経験を重ねていけばよいと思った。

③振り返りの工夫について

- ・振り返りカードの「4. 今日の学習で、クラス全員ができるようになったと思いますか。」の質問には、児童がどのような基準で判断すればよいのだろうか。「グループみんなが・・・」のことばにした方がよいのではないか。

(2) 指導講評（中京大学教授 杉江修治先生）

- ・意見交流は、相互作用によって理解が深まる。クラスの仲間が教えてくれることにより、意欲が高まる。クラスの全員があなたの応援団なんだよという意識をもたせることが大切である。
- ・今日の授業は個人差が出がちな内容だったが、かなり水準の高い説明をしている児童もいた。席の形は課題に応じて柔軟に対応していく必要がある。机2つに3人で座る隊形はよかった。全体での話し合いのときのコの字型の体系は、真ん中をもう少し狭くした方がよかった。
- ・協同学習の視点からみると、できた、できないではなく、努力できたかどうかでいいのではないか。
- ・個人やグループで考えるときには時間の区切りを指定してもよい。
- ・問題の文意が分からない児童を黒板のところに呼んで、担任が個別に指導する姿がよかった。基本的に児童に学びを任せることで、そういった個に応じた指導の機会も生まれる。
- ・机間巡視では、教師は内容を指導するのではなく、取り組み方を指導するのがよい。
- ・グループ間で力に差があるような場合は、ほかのグループに出張してもよいという工夫もある。
- ・振り返りに際しては、相互評価という形もある。自分の評価の妥当性を他の子に聞くようにさせてもよいと思う。
- ・ワークシートを後ろの児童に渡す時に「どうぞ。」「ありがとう。」という言葉がけができていたのが観察できた。認め合いがなされる普通の学級経営の姿を見ることができた。
- ・子どもたちが一生懸命取り組む姿が見られた。

10. 成果と課題

(1) 成果

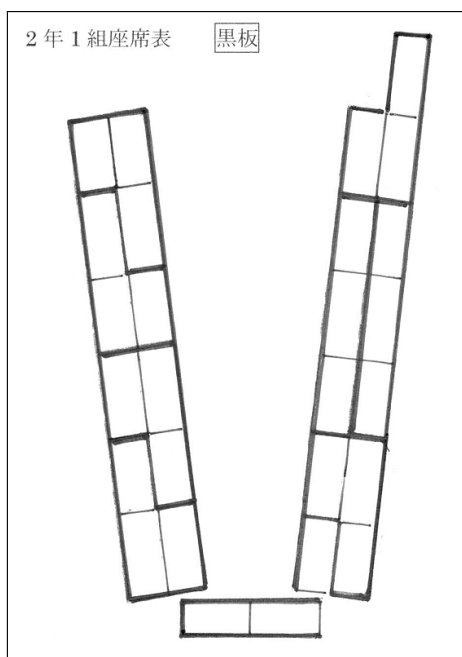
- ・課題を「グループの考えをだれでもが説明できるようにしよう。」としたので、全員が課題に向かってよく努力していた。また、協同学習の考えや学級経営の面から、「グループの考えをみんなが説明できたら、グループのカードにシールがもらえて、そのシールがクラスの数分（27枚）集められたら、クラスの宝の木に実がなる。」ということをして、クラスみんなが高められ、クラスの中の自分の存在感が実感できるようにした。単元4時間目の学習で29枚集められ、クラスの大きな実になった。1時間ごとに一人一人が自分の精いっぱい努力をしていた。
- ・学習形態は3人組にして、話し合いでは3人に役割をもたせて話し合わせたので、友だちの考えをよく聞いて自分の考えと比べていた。また、「話し合いの進め方カード」を使って上手に話し合っていた。

(2) 課題

- ・振り返りカードの観点「今日の学習でクラス全員ができるようになったと思いますか。」については、基準がはっきりしないので難しい。協同学習の考え方からすると、クラスみんなが高められることが大切なので、児童が自分のことだけでなく、友だちのことも気にかけて学習してほしいという願いからこの観点を設けた。だが、2年生の児童にはまだ難しかったように思う。

11. 資料

座席表



計さんのしかたをくふうしよう

2の1 ()

問だい1.

校ていで、1年生が7人と2年生が12人あそんでいます。
2年生が8人きました。校ていには、みんなで何人いますか。
()をつかって1つのしきにあらわしましょう。
考えかたをことばのしきや図であらわしましょう。

自分の考え 1つめ

$7 + (12 + 8) = 27$
1年生 + 2年生 =

1年生 7人
はじめにいた2年生 12人
あとからきた2年生 8人

自分の考え 2つめ

$(7 + 12) + 8 =$

1年生 7人
2年生 12人
2年生 8人
みんなで何人

たしかめ問だい

2の1 ()

まことさんは、赤い色紙を15まい、青い色紙を14まいもっています。青い色紙を6まいもらいました。

色紙は、ぜんぶで何まいになりましたか。

下のしきを見て、どのように考えたかをことばのしきで書きましょう。

$$\textcircled{1} \quad (15 + 14) + 6$$

ことばのしき

(さいしょにもっていたまい数) + あとからもらったまい数

$$\textcircled{1} \quad (15 + 14) + 6$$

ことばのしき

(もっている色紙) + もらった色紙

ふりかえりカード 2の1 ()

ふりかえること	◎よくできた ○できた △もう少し
1. 自分の考えをもつことが できましたか。	◎○△
2. あなたはグループの考えを せつめいできるようになりましたか。	◎◎△
3. だれの考えやいけんが よかったですか。 ○○くんの考えがわかりやすくよか たです。	
4. きょうの学しゅうで、クラスぜんいんができるようになったと 思いますか。	◎○△

ふりかえりカード 2の1 ()

ふりかえること	◎よくできた ○できた △もう少し
1. 自分の考えをもつことが できましたか。	◎○△
2. あなたはグループの考えを せつめいできるようになりましたか。	◎◎△
3. だれの考えやいけんが よかったですか。○○くんと○○さんのグル ープで1年生は1年生でわけて2年生は2年生でわけて いるところがよかったです。	
4. きょうの学しゅうで、クラスぜんいんができるようになったと 思いますか。	◎◎△

話し合いのすすめかた（しかいしゃ）

まとめかた

（まとめがかり）

- 一．話し合いをはじめます。
- 二．まず、ひとりずつ考えたことを話してください。
- 三．〇〇さん、おねがいします。
- 四．しつもんやいけんはありますか。
- 五．〇〇さんの考えは、正しいですか。
- 六．（おなじように もうひとりの友だちの考えを聞く。）
- 七．（さいごに自分の考えを話す。）
- 八．まとめがかりさん、おねがいします。

* 三人の考えがおなじなので、この考えをグループのいけんにしていいですか。

* 〇〇さんと△△さんの考えがおなじなので、この考えをグループのいけんにしていいですか。

* だれの考えをグループのいけんにしますか。

「みんながせつ明できるよ！」カードと板書

「みんなが せつ明できるよ！」カード



板書

計さんのしかたをくふうしよう

めあて ()をつかって、1つのしきをかたけよう。
グループの答えをくらべてせつ明できるようにしよう。

問題1

はしめに1年生が7人と2年生が12人あそんでます。
2年生が6人おとされた。残りの3人はみんな何年生ですか。
1年生が何人おりましたか。
2年生が何人おりましたか。

答え1

はし

1年生 7人
2年生 12人
おとされた 6人
残りの3人
1年生が何人おりましたか。
2年生が何人おりましたか。

1年生 7人
2年生 12人
おとされた 6人
残りの3人
1年生が何人おりましたか。
2年生が何人おりましたか。

(15+40)+30
はじめにかたまりの十の位がかりの
()ひとつとまりの答え 先

7+12=27
1年生が7人と2年生が12人あそんでます。
2年生が6人おとされた。残りの3人はみんな何年生ですか。
1年生が何人おりましたか。
2年生が何人おりましたか。

7+12=27
1年生が7人と2年生が12人あそんでます。
2年生が6人おとされた。残りの3人はみんな何年生ですか。
1年生が何人おりましたか。
2年生が何人おりましたか。

7+12=27
1年生が7人と2年生が12人あそんでます。
2年生が6人おとされた。残りの3人はみんな何年生ですか。
1年生が何人おりましたか。
2年生が何人おりましたか。

たしかめしよ
かえりての答えは
おなじ。

たしかめしよ
かえりての答えは
おなじ。

たしかめしよ
かえりての答えは
おなじ。

第3学年 体育科学習指導案

平成24年6月21日(木) 場所 校庭

3年1組 児童数 25名

指導者 杉山 抄祐里

1. 単元名

「忍者への道」

2. 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

1) 技能

- 題材から、その特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたたり繰り返したりすることができる。
- 題材の特徴的な動きをとらえて、表したい感じを表現することができる。
- 変化のある動きをつなげ、「はじめとおわり」を意識したひとながれの動きにすることができる。

2) 態度

- 課題に進んで取り組むことができるようにする。
- 友達と励まし合って練習や発表、交流できるようにする。
- 場の安全を確かめ、気を付けることができるようにする。

3) 思考・判断

- 動きのポイントを知り、表したいイメージをとらえることができる。
- よい動きを知り、友達やグループのよい動きを自分の踊りに取り入れることができる。

(2) 評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none">・表したい感じを表現したりリズムの特徴をとらえたりして踊る楽しさや喜びに触れることができるように表現運動に進んで取り組もうとしている。・運動の行い方の決まりを守る	<ul style="list-style-type: none">・動きのポイントを知るとともに、自分に合った課題や題材を選んでいる。・よい動きを知るとともに、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れている。・練習や発表の仕方を工夫	<ul style="list-style-type: none">・表現では、身近な題材生活などの題材からそのおもな特徴をとらえ、対比する動きを繰り返したり組み合わせたりして踊ることができる。

<p>り、友達と励まし合って練習や発表、交流しようとしている。</p> <p>・運動する場の安全を確かめようとしている。</p>	<p>している。</p>	<p>・表したい感じを表現したり、リズムの特徴をとらえたりして踊るための動きを見つけることができる。</p>
--	--------------	--

3. 単元について

(1) 単元観 運動の特性

1) 単元観

表現運動系表現運動の学習指導では、児童一人一人がこれらの踊りの楽しさや喜びに十分に触れていくことがねらいとなる。そのためには、児童の今もっている力やその違いを生かせるような題材や音楽を選ぶとともに、多様な活動や場を工夫して一人一人の課題解決に向けた創意工夫ができるようにしていくことが大切である。特に中学年では、題材の特徴をとらえた多様な感じの表現と全身でリズムにのって踊る学習を通して、仲間とかかわり合いながら即興的に踊る体験を大切にしていく。

なお、「表現」における技能では、「即興的に表現すること」と「簡単なひとまとまりの表現をすること」が大切である。「即興的に表現すること」とは、題材から思いつくままにとらえた動きを基に、動きを誇張したり、変化を付けたりして、「ひと流れの動き」にして表現することである。「簡単なひとまとまりの表現をすること」とは、表したいイメージを変化と起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成の工夫をして表現することを示している。

本単元では、「児童一人一人が表現運動の楽しさにふれること」「即興的なひと流れの表現をすること」「はじめ—おわりを付け、簡単なひとまとまりの動きにして踊ること」の三点を意識していきたいと考える。

本単元の運動の系統は以下の通りである。

	低 学 年	中 学 年	高 学 年
名 称	表現遊び	表現	表現
指導目標	<p>【技能】</p> <p>身近な題材の特徴をとらえて全身の動きで楽しく踊ることができる。</p>	<p>【技能】</p> <p>身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり、繰り返したり踊ったりすることができる。</p>	<p>【技能】</p> <p>いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即効的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ることができるようにする。</p>

	<p>【態度】 運動に進んで取り組み、だれとでも仲良く踊り、場の安全に気をつけたりすることができるようにする。</p> <p>【思考・判断】 簡単な踊り方を工夫できるようにする。</p>	<p>【態度】 運動に進んで取り組み、だれとでも仲良く練習や発表をすることや、場の安全に気をつけたりすることができるようにする。</p> <p>【思考・判断】 自己の能力に適した題材を見付け、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。</p>	<p>【態度】 運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合い、助け合っって練習や発表をすることや、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。</p> <p>【思考・判断】 自分やグループの課題解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。</p>
表現の題材	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で特徴のある具体的な動きを多く含む題材。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中の具体的で、イメージがとらえやすく多様な感じの動きを含む題材。 ・空想の政界からの題材。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や自然の中から、激しい感じの題材や特徴的な群や集団の動きが生きる題材。 ・社会や生活の様々な印象的な出来事から選んだ関心のある題材。
ひとながれの表現（即興表現）	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の特徴や様子をとらえ、跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなど、全身の動きに高低や速さを変えて即興的に踊る。 ・どこかに「大変だ！○○！」のお話をつくって続けて踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の主な特徴をとらえて、表したい感じを誇張し、動きに差をつけて踊る。（大きく・小さく・速く・遅く） ・「はじめとおわり」をつけた動きの中に対立する動きや対極の動きを組み合わせて踊る。（跳ぶ・転がる、動く・転がる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の変化や起伏の特徴をとらえ、表したい感じやイメージを強調して踊る。 ・激しい感じ、急変する感じなど動きを組み合わせたり、繰り返したりして即興的に踊る。 （素早く走る、急に止まる、回る、ねじる、跳ぶ、転がる、集まる（固まる）・離れる、合わせて動く、自由に動くなど。）

ひとまとまりの表現（即興表現を生かした作品創作）	・簡単なお話を作って、つなげて踊る。	・表したい感じを中心に、感じの異なる動きや急変する場面をつなげ、「はじめとおわり」をつけて踊る。	・表したいイメージを「はじめ-なか-おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにして感じをこめて通して踊る。
--------------------------	--------------------	--	---

2) 運動の特性

ア. 一般的特性

- ①言葉や道具を介さない、心と体に直結したダイナミックな身体表現の運動である。
- ②心と体をイメージと動きの回路で結び、心身を解放させることができる運動である。
- ③集団的活動や身体表現を通じ、コミュニケーション能力を育成することができる運動である。

イ. 児童から見た特徴

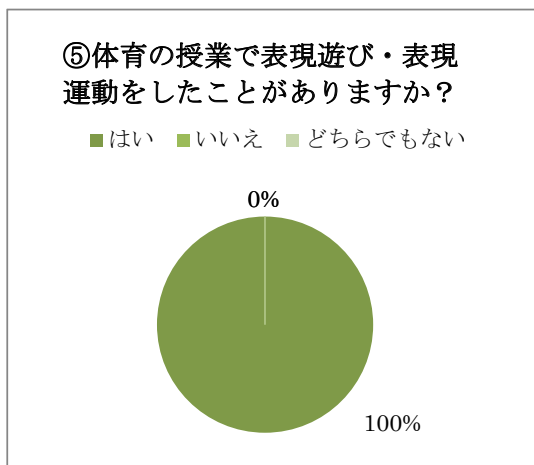
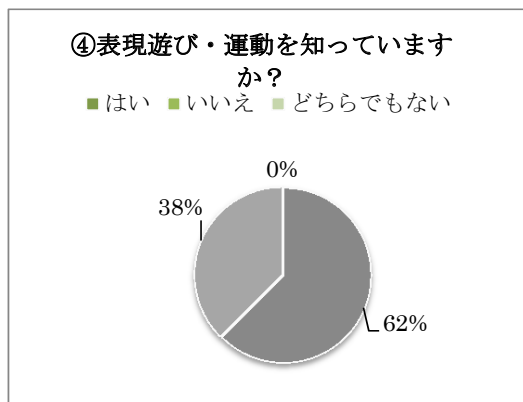
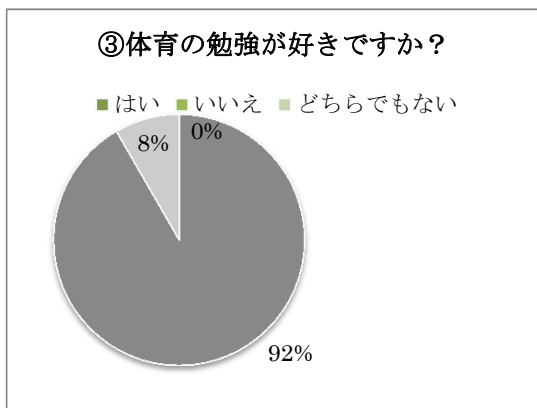
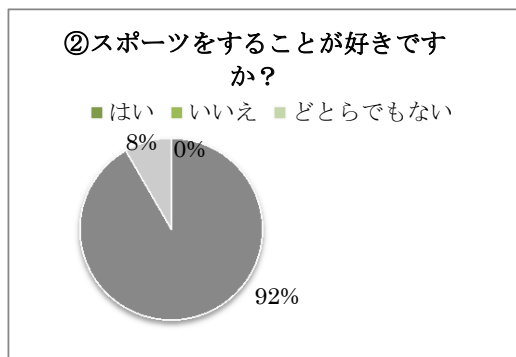
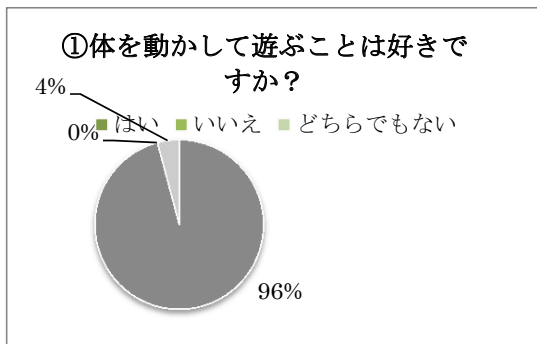
表現運動の先行研究からとらえられる中学年児童の特徴は、

- ①多様なものへの探究心が旺盛でエネルギーに動くことを好む。
- ②理論的・客観的な思考が進む。
- ③表現に関しては、現実的な題材よりも、探検や忍者のように未知の想像とスリルに富んだ題材や多様な場面やおもしろい動きを含む題材を好む傾向にある。

子どもの興味・関心が生かされるように多様なとらえ方や動きを含む題材を取り上げ、学習過程や活動を工夫し、多様な表現へのチャレンジができる学習環境を整えていく。しかし、「表現」というと、表現遊びや表現運動の経験がない児童にとって、動きに対しての具体的なイメージがわからないために体が棒立ちになってしまうことや表現することが恥ずかしいと感じることが考えられる。そのために、表現運動に苦手な意識をもってしまう場合がある。

(2) 意識調査（アンケートから）

実施日 6月14日（木） 対象人数：24人 実施方法：質問紙法 単位%



考察

アンケート①～③は質問が似てしまったが、児童の実態では、体を動かすこと、スポーツをすることと、体育の授業がおおむね「好き」という結果がでた。新指導要領における生涯スポーツの観点からすると、まずまずの結果だと言える。

児童へのアンケートから、低学年での表現遊びの経験があることがわかった。質問④は質問の仕方が悪く、運動をしたことはあるけれど、それが「表現」であるかどうかというのは児童にはわからなかったようだ。3年で取り組む小作品作りは初めて触れる運動である。得意な運動の上位には、水泳・ドッジボール・リレーが上位で上げられた。⑦「体育の授業をしていてどんなときに楽しい気持ちになったり、嬉しい気持ちになったりするか」という問いには、リレーで一位になったときなど、勝敗がつく運動、特に勝ったときが一番楽しいという結果が出た。また、次に多かった回答が、できなかったことができるようになったときであった。リレーなどはチームワークが求められるが、中学年になったばかりの児童には、その運動が人との関わりや協力であるという認識はとても薄い。わかりやすい勝敗、できないことができるようになるという個人の充足感が満たされたときに楽しさや嬉しさといった満足感を味わっているようだ。本単元では、人との関わり、想像の話の中で自分の意思を自由に解放させたい。また、グループ活動で作品作りは初めてであるが、積極的に取り入れていきたい。

4. 本単元における協同学習のとらえ方

(1) 表現運動・ダンスの特性と授業の姿

ダンスは、言葉が生まれる以前から存在した人類最古の文化である。その発生から今日まで、ダンスは人間の生活と深く結びつきながら種々に形を変えて発展してきた。ダンス・踊りというと、好き・嫌いの好みはあるが、小さい頃は教えられなくても、音楽があれば笑顔でリズムをとっていたそんな幼少時代がだれにでもあったのではないだろうか。「踊りたい」「何かに変身したい」という欲求は、個々人の心と体のすべてを投じた表現する自由で自発的な行為である。

表現運動・ダンスの特性として、身体表現は、心と体、そして仲間とのコミュニケーションの世界といわれている。すべてのダンスに共通する特性は、「リズムカルな運動の連続による模倣・変身欲求の充足が楽しい運動」と捉えられる。忍者や恐竜など、日常の自分を越えてリズムやイメージの世界に投入し、自分ではない何かになりきって変身したり踊ったり、心の中にある思いや考えをいろいろ工夫してからだいっぱい表現することが面白い運動である。また、踊る楽しさをベースに色々な動きを工夫し、踊りで他者と共感・交流しあうのが面白い運動である。

表現運動は、自分の体と動きで表現するところに特徴がある。「からだで語る言葉」とも言われ、心を一番正直に表す。言葉や道具を介さないだけに心と直結したダイナミックな身体表現の世界は、空も飛べれば、地中にももぐれてしまう。「なりきる楽しさ」は言葉よりも大胆に心を表すといってよい。この身体表現独特の動きの面白さや探究をよりよい表現にするために、なりきる楽しさを抽象的なままにせず、身体や動きのレベルに置き換える心と身体、イメージの回路づけが表現運動の授業を行う際に教師が担う大きな役割である。

(2) 表現運動における協同学習のとらえ方

協同学習の定義に、「常に自分自身と仲間全員が成長することが大切だと全員が心から思っ
て学習に臨むことの効果」とある。学びの仲間全員が互いに応援団だという場面で学ぶ
ことの良さは、競争学習と比べて習得面での効果が高いことは先行研究から報告されてい
る。

表現運動は個性との関係が深く、違いがあるから面白く、多様な内容を含んで成立して
いる。個が響き合うコミュニケーションを大切にし、子どもたちの様々な「差」を「違い」
として捉え、多様な個性を認める自由な雰囲気と人間関係が大切になる。授業形態も、教
師対子ども的一方通行ではなく、子ども同士が向かい合うコミュニケーションの形態にな
る。ペアやグループになり、関わり合いをもち、作品作りのために目的をもち話し合う。
創作過程の見せ合いを通して意見の交換、アドバイスを言い、さらに作品を良いものへと
仕上げ全体での発表会を行う。「踊る一創る一見る」活動にわたり、常に自分自身と仲間全
員が成長することが大切であり、学びの仲間全員が互いに支え合い授業が成立していく。
過去の実践においても個人、グループごとそれぞれ多様な表現の世界、その面白さに触れ
て子どもたちの表情は生き生きと輝いていた。発表会の後の感想では、皆がよく頑張っ
ていた、一人ではできないことも仲間がいるからできる。など、毎時間の授業を重ねるこ
とで、仲間全員が成長することを大切だと思い、感じる子どもたちが多く育った。

本単元を通じ、新しい時代が要請する学力としての「生きる力」を身につけさせるため
に、協同学習の理論を踏まえた授業の実践は、子どもたちにとって仲間と学び合うこと、
認め合い励まし合うことを実感させるまたとない機会となる。この実践をもとに、クラス
作りや子どもたち同士の人間関係作りがより一層深く、互いを尊重し合う関係作りのき
っかけとしていきたい。

5. 目指す児童像（協同学習の観点から）

(1) 自分の考えを伝え合う子

中学年は低学年と比べると比較的、何にでも興味をもち、行動する範囲が広がる。そし
て「自分でやってみたい、うまくなりたい」という思いと動きが一致するときでもある。
教師が「子どもたちが何に興味をもっているか」を見つけ出し、題材に生かし、ふさわし
い題を決めていくことが大切である。また、発想や夢が広がる発達段階において、「おもし
ろくできそう」という自分の思いを動きに生かし、「上手くなりたい」と思う児童の気持ち
を育てる授業を行っていきたい。しかし、表現遊びや表現運動の経験がない児童にとって、
動きに対しての具体的なイメージがわからないために体が棒立ちになってしまうことや表現
することが恥ずかしいと感じ苦手な意識をもってしまう場合がある。一人一人の忍者に対
するイメージを大切にするために、イメージをふくらませる時間をしっかりもち、個人、
グループで題材に繰り返し取り組む時間を作り、表現の幅を広げさせていきたい。

(2) 互いのよさを認め合える子

個人で考える時間を作り、課題と向き合い、友達とならできそうなこと、グループでの活動に生かせそうなことを考えてからグループでの活動をしていく。自分の発想を仲間と交流し合い、様々な身体表現に取り入れる活動に取り組み、また、発表会などで他のグループとの関わることなど、授業の中に多様な活動の工夫を取り入れていく。そして、友達と共に学び合うなかで、自己肯定感を高めることができる環境作り、積極的な言葉がけを教師自身が手本となり行っていきたい。体育の授業以外での児童それぞれの生活環境の中で、自信をもって自己表現をすることができる児童の育成を目指し育てたい。

6. 児童の実態

体育が大好き、外遊び、体を動かすことが大好きという子どもたちがとても多い反面、体を動かすことが苦手な子どももいる。運動会での表現（リズムダンス）の経験、また、アンケートより低学年のときに表現運動の経験があることがわかった。しかし、何かになりきり、自分たちで何か動きを考えて表現することは初めてである。

4月当初、廊下歩行の際に、「忍者のように歩いていこう」と声をかけたとき、ほとんどの児童が、足音を立てない、口を閉じて、ゆっくり、忍び足で・・・とまさに、忍者のような動きをしたことがある。それ以降も、「忍者のように・・・」と声をかけると、ばたばた歩いたり、話をしたり、廊下歩行の際に気をつけなければならない点は児童自ら気をつけようとしている。このことから、児童は、イメージしやすいものに対してすぐに身体が働き、それらしい動きを模倣することができるかと仮定した。仲間意識が強まるなか、一人一人を生かしながら特徴のある動きを見つけ、自分たちだけの表現の世界を作りあげること、他のグループと交流し、互いのよさを認め合うことを大切にしながら児童の良さを引き出していくことができる学習内容や方法を工夫し、取り組んでいきたい。

7. 主題に対するための手立て

(1) 課題提示の工夫

授業開始時に、本時の流れを把握するために授業の流れを確認し提示すること、児童の考えや前時までの取り組みがわかるような掲示物の工夫し、学習意欲を高める意識づけを行う。活動が停滞せず、考え動ける子どもを育てるために、学習パターンを決めて児童に学習の見通しをもたせた。学習環境を整えることは、児童に迷わせることなくスムーズに授業に入ることができる手立てとして有効と考えた。

(2) 学習過程の工夫

児童たちに十分に遊ばせ、運動を楽しむ工夫として、以下の4点を授業の構成として考えた。

- ①遊びの世界から表現の世界に引き込むための工夫。(ワクワクタイム)
- ②忍者カルタを使い、誰もがリーダーになって忍者の特徴ある動きを楽しむ工夫(ノリノリタイム)
- ③忍者カルタを引きながら、変身することを楽しみ、「大変！○○だ！！」と急変する場面を取り入れながら、ひと流れの動きを簡単な話にして続けて表現すること。(ノリノリタイム)
- ④表現遊びや忍者カルタの動きの例を参考にしてグループごとに小作品作りをすること。また、ミニ発表会を開き、他のグループと感想・意見の交流をもち、作品作りに生かすこと。(なりきりタイム)

何かになりきり、さらに小作品を作ることが初めてである。作品作りに生かされるために授業の流れを明確にすること、そして、1つ1つの活動を毎時間繰り返し行い、動きに慣れさせていく。その積み重ねが小作品作りに生かされるための手立てとして授業の構成を考えた。

(3) 学習形態・話し合いの工夫（関わり合いの工夫）

クラス替えをして数か月の人数の少ないクラスである。児童には、様々な場面で多くの友達と関わる経験を積ませたいと考えているので、教師が意図的に班を編成することはせず、生活班の男女混合4～5人組を基本として行っていく。ノリノリタイムでの表現遊びでは、1人から即興的にペア、グループを作り、活動ができるように対比する動きや繰り返したりする動きを取り入れていく。また、一人の友達の動きをまねしていく「リーダー続け！」など、グループの中で全員がリーダーの役割になれるような場面も意図的に作り、活動を行う。

ミニ発表会では、グループごとの発表と(4・5時時目)、グループを固定して行う発表会(6・7時時目)に分けた。まずは、作品を作ることを経験し、他のグループがどのような課題を選び表現するのかを見合い、発表会の雰囲気味わう。4時時目以降は、友達のよい動きや、他のグループの表現の工夫などを見つけ、感想や意見を交流する。お互いに見合うことで、題材に合った動きや様子、特徴的な動きをとらえていることに気付かせ、自分たちの踊りに取り入れて表現の幅を広げる展開にしていく。スムーズな話し合いができるように、あらかじめ話し合いの観点や活動のめあてを明確にして授業の展開を行い、小作品作りができるように指導をしていきたい。

(4) 振り返りの工夫

書くことに時間がかかる実態があるが、ワークシートでは本時のめあてに即した振り返りを4～5評点、チェックする方式で記入する部分と、本時の授業で印象に残ったことを振り返り記述する形式のワークシートにした。また、毎時間記述するワークシートはノート

型にまとめ、単元の途中でも適宜、自分たちの活動を振り返り、積み重ねてきた学びを生かすための手立てとして活用していく。

児童から出た意見や、参考になる動きなどはワークシートから拾い上げ、授業の中で取り上げていく。よいこと、よいものに触れることで自然とそれらを取り入れて行こうとする意識や態度を育てていきたい。また、評価計画に沿った観点をもとに、ワークシートをしっかりと評価に生かしていく。

(5) その他の学び合いの工夫

「忍者」に対する具体的なイメージをもつために、オリエンテーションの時間を持ち、課題と向き合う時間をつくる。それぞれイメージバスケットとし、「忍びの修行」「忍法〇〇の術」（様々な忍法を自分たちで考える）「どんな戦いをするか」など、児童が出した意見を教師がいくつか項目分けをする。「忍者さんがころんだ」や「リーダーに続け！」（変身カードを使って）即興的な動き、よい動き、特徴的な動きの参考にしていきたい。個人やグループで考え、授業の中で様々な動きを経験することで、小作品作りに生かしたい。

8. 学習過程

7時間単元の学習過程の一覧を次ページ、次々ページに示す。

9. 評価計画

学習過程の後に評価計画を示す。

8 学習過程

段階 時間	つ か む	取 む	組 む	
オリエンテーション 1 単元の課題を知る ・表現運動に 取り組むことを知る。 ・体育についてアンケートをとる。 2「忍者への道」イメージバスケット ・忍者のいろいろなイメージをワークシートに書き出す。 3 発表タイム ・個人で考えた忍者のイメージを発表する。	2 1 学習活動の確認 ☆忍者のいろいろなイメージを表現してみよう 2 ワクワクタイム ・大変だ！忍者さんがころんだ！？ き、様子をあらわす 4 変身タイム ・忍者の色々なイメージを表現する。 ・2グループに分けて見せ合い、感じを確かめ合う。 ・忍者らしいよい動き、特徴のある動きがあったか発表する。(感想) 5 クールダウン 6 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返る。	3 1 学習活動の確認 ☆動き方に変化をつけて、忍者のイメージを表してみよう 2 ワクワクタイム ・大変だ！忍者さんがころんだ！？ 3 変身タイム ・恐びの走り、忍法、しゅりけん投げなどリズム言葉を口に出しながら教師の指示で動く。 5 クールダウン 6 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返りをする。	4 1 学習活動の確認 ☆忍者に動きの特徴をとらえて楽しく踊ろう 2 ワクワクタイム ・大変だ！忍者さんがころんだ！？ 3 ノリノリタイム ・リーダーに続け！（忍者カードを使って） 4 変身タイム ・お気に入りの表現をいくつかつなげて簡単なストーリーにする。 ・ミニ発表会をする。 ・よい動き、忍者らしい特徴のある動き方など、友達やグループのよかったところを交流する。 5 クールダウン 6 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返りをする。	
教師の指導	・個人でじっくりと課題に向き合わせる。(ワークシート) ・忍者ってどんなことができそうかな？と問い、イメージを豊かにさせる。 ・一人一人忍者の表現を楽しめるようにする。	・児童から出た様々な意見をもとに、忍者の動きを見てみる。 ・児童の動きでよい動きがあったら、師範させる。 ・特徴的な動き、忍者の様子が表れるような言葉がけをする。	・身体の状態を色々変える言葉がけや（高い・低い、回る・ねじる、跳ぶなど）動きが出るような言葉がけをする。（速く、ゆっくりに、回る・転がる、急に止めるなど） ・変身タイムでは、ノリノリタイムで取り組んできたことをいかにすようさせる。	・はじめにおわりを意識させ、忍者になりきっている緊張感をもたせる。 ・児童たちから出た表現や言葉があったら、イメージバスケットに取り入れる。

つ く く る ・ 見 せ 合 う	5 (本時)	6	7
<p>1 学習活動の確認 ☆表したい忍者のイメージで動きを工夫し、小作品にして踊って楽しもう。</p> <p>2 ワクワクタイム ・大変だ！忍者さんがころんだ！</p> <p>3 変身タイム ・表したいイメージをはっきりさせたり、感じを強めたりして工夫して踊る。 ・お気に入りの表現をいくつかつなげて簡単な小作品にする。 ・ミニ発表会をする。 ・よい動き、忍者らしい特徴のある動き方など、友達やグループのよかったところを交流する。</p> <p>5 クールダウン</p> <p>6 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返りをする。</p>	<p>1 学習活動の確認 ☆表したい忍者のイメージで動きを工夫し、小作品にして踊って楽しもう。</p> <p>2 ワクワクタイム ・大変だ！忍者さんがころんだ！</p> <p>3 変身タイム ・表したいイメージをはっきりさせたり、感じを強めたりして工夫して踊る。 ・お気に入りの表現をいくつかつなげて簡単な小作品にする。 ・ミニ発表会をする。 ・よい動き、忍者らしい特徴のある動き方など、友達やグループのよかったところを交流する。</p> <p>5 クールダウン</p> <p>6 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返りをする。</p>	<p>1 学習活動の確認 ☆「もてる力」で精一杯表現しよう！忍者への道」</p> <p>2 発表会に向けて、作品作りのしあげをする</p> <p>3 グループごとに発表する</p> <p>4 クールダウン</p> <p>5 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返りをする。</p>	<p>1 学習活動の確認 ☆「もてる力」で精一杯表現しよう！忍者への道」</p> <p>2 発表会に向けて、作品作りのしあげをする</p> <p>3 グループごとに発表する</p> <p>4 クールダウン</p> <p>5 振り返り ・本時のめあてを中心に振り返りをする。</p>
<p>・各グループ、何をどのように表したいのか確認し、必要に応じてアドバイスをを行う。 ・表現の効果を高めるために、感じを強める動きや特徴のある動きなどは積極的に声をかけていく。 ・はじめ～おわりをつけ、小作品としてのまとまりを意識させる。 ・ストーリーが浮かばないグループのために、いくつかストーリーの例をあげておく。</p>	<p>・各グループ、何をどのように表したいのか確認し、必要に応じてアドバイスをを行う。 ・表現の効果を高めるために、感じを強める動きや特徴のある動きなどは積極的に声をかけていく。 ・はじめ～おわりをつけ、小作品としてのまとまりを意識させる。 ・グループを回り、動きだけでなく、構成・見せ方を工夫するようにアドバイスをする。</p>	<p>・発表会に向けて、しっかりとしたイメージをもち、作品作りの最終確認をする。 ・発表会を行い、よい動き、特徴のある動きがしっかりとできるようにしているかの視点をもち、授業見学をする。</p>	<p>・発表会に向けて、しっかりとしたイメージをもち、作品作りの最終確認をする。 ・発表会を行い、よい動き、特徴のある動きがしっかりとできるようにしているかの視点をもち、授業見学をする。</p>

9 評価計画

		つかむ	取り組む	つくる・見せ合う					
評価の観点	時	1	2	3	4	5	6	7	
	技能	観点			①		②・③		
		いつ			A・B・C		C		
		方法			観察・カード				
	態度	観点	①	②・③					
		いつ	発表	A・C	B・C				C
		方法	カード	観察	観察・カード				
	思考・判断	観点		②	①・②				
		いつ		A・C	A・B・C		体		
		方法		観察・カード			観察・カード		

☆評価の観点☆

評価の観点	評価	規 準	評価方法
技能	①	題材から、その特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりすることができる。	観察 学習カード
	②	題材の特徴的な動きをとらえて、感じを込めて踊ることができる。	
	③	変化のある動きをつなげ、「はじめとおわり」を意識したひと流れの動きにすることができる。	
態度	①	表現運動に進んで取り組もうとしている。	観察 学習カード
	②	友達と励まし合って練習や発表、交流しようとしている。	
	③	場の安全を確かめたり、気をつけたりすることができる。	
思考・判断	①	動きのポイントを知り、表したいイメージを自分の踊りに取り入れることができる。	観察 学習カード
	②	よい動きを知り、友達やグループのよい動きを自分の踊りに取り入れることができる。	

A ワクワクタイム・・・準備運動のこと、表現運動に取り組める体ほぐしと（表現遊び）準備運動をする。

B ノリノリタイム・・・主運動につながる運動のこと、忍者カルタ学習課題に必要な動き「技能」を高めていく段階。

C 変身タイム・・・主運動のこと、即興的な表現やひと流れの表現をつくること。表したい感じを体全体をつかって表現していく。

10. 本時の指導（5/7）



(1) 本時のねらい

【技能】表現運動の楽しさにふれ、題材の特徴的な動きをとらえて踊ることができる。

【態度】表現運動に進んで取り組み、友達と話し合い、練習や発表ができる。

【思考・判断】よい動きを知り、友達や他のグループのよい動きを取り入れることができる。

(2) 本時の展開

時間	学 習 活 動	形態	○支援や手立て ☆評価
3	<p>1 集合・挨拶をする。</p> <p>2 本時のめあてと学習内容を 確認する。</p> <p>表したい忍者のイメージをいくつかつなげて、グループで心を合わせて踊ろ</p>		<p>○本時の学習の流れを伝え、学習に見通しをもたせる。</p> <p>○学習の進め方が分かるように掲示物を用意する</p>
10	<p>3 ワクワクタイム</p> <p>・大変だ！忍者さんがころんだ</p>  <p>忍法“くもの糸” 敵を捕まえるぞ！！</p> <p>自分なりに「表現の工夫をすること」を毎時間伝えてきたので、目に見えない敵と戦うことや、即興的にペアになり、友達と活動することができるようになった。</p>	個人 ペア グループ	<p>○身体の動きを大きく、はっきりと動かし、体を温める。</p> <p>○自分のお気に入りの表現を見つけ、繰り返したり誇張したりするための言葉がけをする。</p>  <p>“水とんの術”水の中も大丈夫よ！</p> <p>高いー低い、早いーゆっくり（スローモーション）といった対局にある動きの変化を言葉がけに取り入れることによって、しゃがむ子供、立っている子供、寝転んでいる子供など、同じ術でも動きの変化がたくさん見られた。</p>
20	<p>5 なりきりタイム</p> <p>・「忍者への道」の表現に取り組む</p>	グループ 1:赤影	<p>○表したいイメージ、いくつ繋げるかなど、話し合いや作品作りの観点を伝える。</p>

水とんの術を入れる？それとも戦い？ヒントカードを見てみよう！



・グループごとに発表する

・よい動き、特徴のある動き方を見つけ、全体で交流しあう。



- 2:青影
- 3:白影
- 4:桃影
- 5:黒影
- 6:緑影

- 自分たちのよさを生かし、表したいイメージを取り入れ、簡単な話をつけて表現することを伝える。
- 各グループのよい動き、忍者らしい特徴のある動きを見る。
- 表現の効果を高めるためのアドバイスをする。

表したいイメージを話し合いながら、すぐに動きに繋げることができた。イメージが沸かない場合は、イメージカルタとして使用するはずであったカードを“ヒントカード”にしたことで、カードを参考にするグループが見られた。



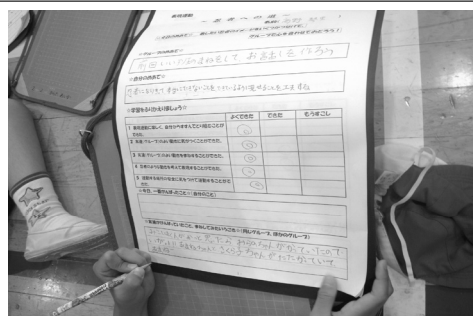
ポーズもしっかりきめよ



ううっ、やられた

- よい動き、忍者らしい特徴のある動きが見られたりしたかという観点で振り返りをさせる。(口頭)

初めは照れる姿や、棒立ちのようになり、表現することができない子供たちがたくさんいた。指導する側の心が何度も折れそうになったが、指導方法を変えたり、めあてにせまるための手立てを変えていったりした。粘り強く、繰り返し指導をすることが、結果として子供の経験になり、自信をもって活動に取り組むことができる手立てになることを学んだ。



この感想には、すぐ上のチームのことが書かれていた。自分が思っていたお話のラストではなかったことに驚き、工夫してであると述べられていた。

- ☆関わり合いながら表現運動を楽しんでいたか(技)
- ☆友達と関わり合い表現することができたか。(態)
- ☆自分やグループのモチ味を生かし、良さを生かす動きを取り入れることができたか。(思・判)

3	6 クールダウンをする。	グループ	○運動でつかった部位をよく伸ばし、ほぐすようにする。
12	7 学習カードに振り返りをする。 8 整列・挨拶をする。	個人	○本時の課題に即して振り返りをする。 ○取り入れてみたい動き、まねしてみたい動きなども書き込むようにさせる。 ☆本時のめあてが達成されたか発表できたか。(技、態、思・判)

11. 研究協議・指導講評

(1) 研究協議

1) 課題提示の工夫について

- ・子供が生き生きと忍者に取り組んでいた。
- ・自分たちで進んで活動に取り組むことができていた。(やらされているという感じがな
い)

- ・技の出し方が忍法のように、印象的だった。(色々な技、忍術が書いてあるのカードのこと)
- ・発表という明確な目標がよくわかっていた。
- ・学習パターンが児童に定着していた。

2) 学習形態・話し合いの工夫について

- ・学習の流れに合わせて形態も変わっていてよかった。(一人→ペア→グループ)
- ・一人一人が意見を言えて練り上げていた。
- ・アイデアが出されてすぐに動きに繋げることができていた。
- ・4人程度の人数配分がよく、よく話し合いができていた。
- ・発表の場が中央でステージのようでよかった(相手を意識して表現できた)

3) 振り返りの工夫について

- ・観点を決めさせて発表を見ることができたら、次時に友達のよい動きを取り入れることにつながるのではないか。
- ・前回の振り返りを生かして本時の活動に繋げることができていた。
- ・客観的に見て、わかりづらいグループもあったので、指導や助言が必要である。

(2) 指導講評 (中京大学教授 杉江修治先生)

- ・以前参観した実践で、1年生の6月ですでに、4人組で表現の協同学習をやりきる授業も見たことがあった。グループによる表現活動という今回の題材では、3年生ならば十分に、成果が出せるのではないかと思っていた。技能教科でも、制作しようとする対象の「読解」を考える必要がある。音楽では歌ったり演奏したりする曲、図工では描こう、作ろうとする対象をどれだけ深く読み取るかということが作品の出来に大きく影響する。本時は、児童が「忍者」の行動を読み取るための手立てが講じられていた点がよい。また、単元の構造そのものが面白く興味深い。そういった十分な準備があったおかげで、子供たちが自信をもって動いていた。自分が表現しようとするものをしっかり読み取ることはより良い成果を生み出すことにつながり、その経験をもってさらに自信をもって学習活動ができるようになる。
- ・単元の最初に単元全体の学習内容の見通しをしっかりと伝えて、学びの全体像を把握し、さらに単元の内容を学び取る値打ちが理解できると子供は意欲をもって取り組むようになる。課題を明確に示すにあたっては、「何をするか」という形の行動面を明確にしているにとどまってよしとしている傾向がある。本時ならば、「踊ろう」ではなく、「どのように踊るのか」が大事であり、子供自身が自分自身の学びの程度を自己評価するための視点としては、弱さを感じた。何をするかではなく、何を学ぶか、自分がどう変わればいいのかという本当のゴールのイメージが伝わるような表現を考えていくべ

きである。なりきりタイムで活動したとき、板書、資料提示がよかったが、せっかくなので、本時の課題（めあて）ともう少しピタリと合ってほしかった。

- ・学習の流れで、「わくわく」「のりのり」「へんしん」など、言葉が子供に届く言葉であると分かったら、表現運動の指導に際して、教師が共有して使うこともよいのではないだろうか。これも教材開発の一つである。
- ・運動量が体育として十分であり、子供たちが本当に夢中になって活動していた。子供自身が課題（目指すゴール）で結びついており、言いたいことが言える関係が成立していた。共に課題を解決する経験をこれまででしていたので、こういった認め合える児童同士の関係、生き生きと発表できる環境ができている。
- ・学習の振り返りの紹介は、面白い手法だった。子供たちの意見を取り上げることはとても効果的であり、いいことを示すことがかれらの学習した姿のイメージ作りの助けになる。「手裏剣はこうやるとかっこいいよ」「影分身に見えるやり方を教えてくれた」と言える関係は、問題解決型の協同学習の姿である。
- ・発表会の場面では、今日の課題に対して子供たちがしっかり関与していたので、全員が自分のこととしてしっかり参加していた。子供は自分がしっかり参加、関与したものについて興味関心をもつものである。なお、発表を見る側にも、手を上げて意思表示をさせる、発表者に評価をフィードバックさせるなど、何か課題を与えてもよかった。発表では友達に向かってきちんと話をする姿は望ましいが、もう少し届く声で伝わるようにさせるとよい。
- ・技能的な教科でも、しっかりとした交流をさせることは意味のあることだと考えている。他の座学の授業でも、協同思考やコミット（関与）していれば、子供たちは個人思考をするにしてもしっかりと取り組むことができる。全員が意見を出し合えるような学習の姿が座学にも広がっていくことを期待したい。
- ・整理運動のあとの最後のかけ声「がんばったね」は、自分の頑張りを認めてもらえる声かけだと感じた。この認め合いは、学級の協同を促すしかけとして有効であり、今日のように、子どもたち自身がやりきったという満足の実感があるときに意味がある。

12. 成果と課題

(1) 成果

- ・めあてを明確にすることで学習を見通すことができ、スムーズな学習活動ができた。
- ・なりきりタイムに入る前に、具体的・詳細な指導と友達の振り返りを活用した動きの工夫の視点を伝えたこと、また、主運動につながる運動や、多様な動きを引き出すしかけを（経験させる運動）取り入れたため、自分の考えを伝え合う姿やアイデアを取り入れて動きに生かすことができた。ヒントカードも活用する子供もいたので、よい活用方法であった。
- ・指示通りに動いているが、子供たちが自律的に動いている経験として、枠組みの中で

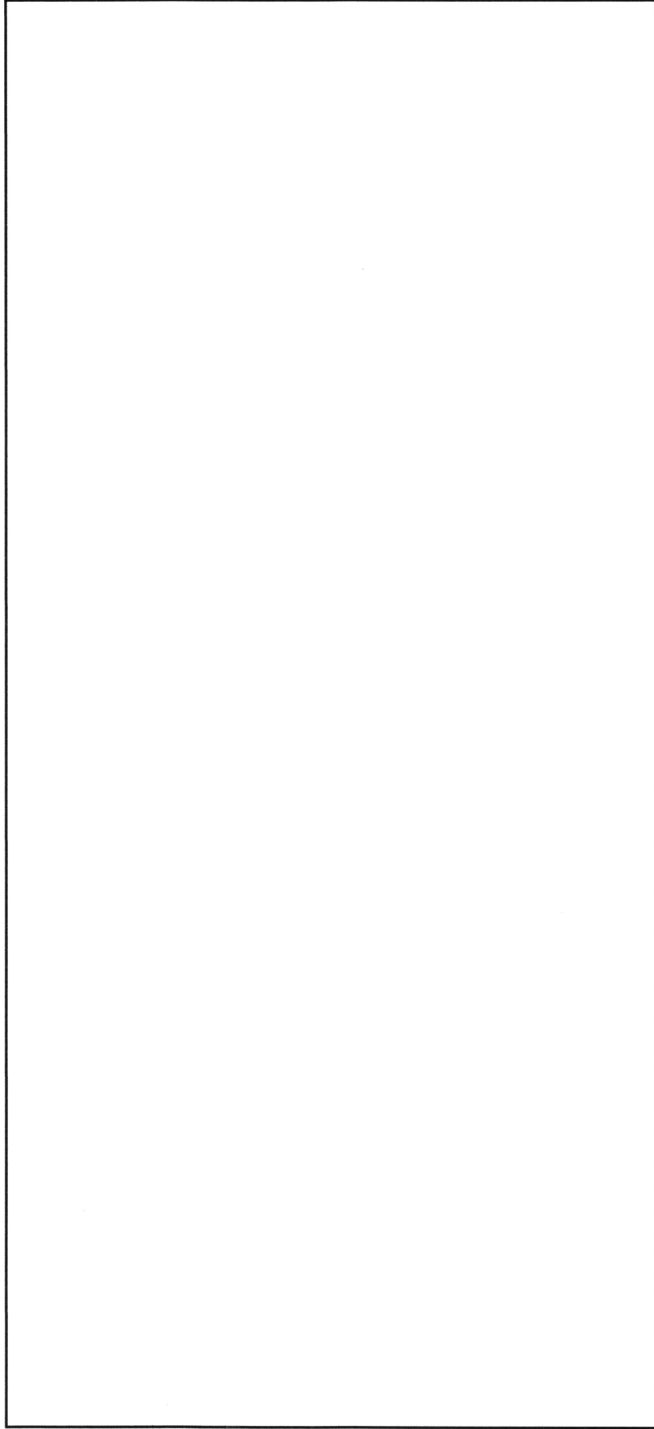
自律的にしっかりと動くことができていた。

(2) 課題

- ・課題が行動を明確にしているだけであって、どのように関わるかの視点がなく、子供自身が自己評価する視点が少し弱い。本当のイメージが伝わるように表現する必要がある。工夫は大変だが、課題作りとして、何をやるのかを示すのではなく、どうなればよいのかをはっきり示すことで課題の達成につながるのではないだろうか。
- ・主運動につながる運動では（わくわくタイム）多様な動きを取り入れていて良かったが、ペアや2～3人で意図的に関わり合う動きを取り入れることで、なりきりタイムでの動きの幅が広がったのではないだろうか。
- ・発表では、忍者同士のたたかいに偏っていた。「お話作り」なのか「おどりをつくるのか」のか、もっとはっきりさせるとイメージに変化が出たのではないだろうか。
- ・発表会を行うことで、クラス全体のつながりはあったが、横のつながりとして、グループ同士が高まり合えるような関係は見られなかった。言葉かけや指導を教師が積極的に行ってよいのではないだろうか。
- ・学習のねらいは「動きの質」であるため、途中で音や声（セリフ）は入れる必要はないのではないだろうか。音についても考慮が必要である。

～ 忍者への道 ～ 名前()

☆忍者ってどんなことができそうかな？ ☆ たとえば・・・忍びのしゅぎょう! 忍法〇〇のじゅつ! たたかい! ?
合い言葉って言うのかな? どんな様子? いつ活動しているの! ?



表現運動

～ 忍者 へ の 道 ～

名前()

☆今日のめあて☆ 忍者のいろいろなイメージを表現してみよう！！

☆学習をふいかえいましょう☆

	よくできた	できた	もうすこし
1 表現運動に楽しく、自分からすすんでとり組むことができた。			
2 友達のよい動きに気がつくことができた。			
3 友達のよい動きをまねすることができた。			
4 忍者のような動きを考えて表現することができた。			
5 運動する場所の安全に気をつけて運動することができた。			

☆今日、一番がんばったこと☆

☆友達ががんばっていたこと☆

表現運動

～ 忍者への道～

名前()

☆今日のめあて☆ 表したい忍者のイメージをいくつかつけて、

作品をかんせいさせよう

☆グループのめあて☆

--

☆自分のめあて☆

--

☆学習をふいかえりましょう☆

	よくできた	できた	もうすこし
1 表現運動に楽しく、自分からすすんでとり組むことができた。			
2 友達(グループ)のよい動きに気がつくことができた。			
3 友達(グループ)のよい動きをまねすることができた。			
4 忍者のような動きを考えて表現することができた。			
5 運動する場所の安全に気をつけて運動することができた。			

☆今日、一番がんばったこと☆(自分のこと)

☆友達ががんばっていたこと、まねしてみたいうごき☆(同じグループ、ほかのグループ)

表現運動

～ 忍者への道～

名前()

☆今日のめあて☆ もてる力でせいっぱい表現して発表会を成功させよう!

☆グループのめあて☆

--

☆自分のめあて☆

--

☆学習をふりかえりましょう☆

	よくできた	できた	もうすこし
1 表現運動に楽しく、自分からすすんでとり組むことができた。			
2 友達(グループ)のよい動きに気がつくことができた。			
3 友達(グループ)のよい動きをまねすることができた。			
4 忍者のような動きを考えて表現することができた。			
5 運動する場所の安全に気をつけて運動することができた。			

☆今日、一番がんばったこと☆(自分のこと)

☆友達がかんばっていたことやこの学習をふりかえて…☆

第4学年 社会科学学習指導案

平成24年10月31日（水）第5校時

4年1組 児童数31名

指導者 桜井 正美

1. 単元名

「地図のひみつをさがそう」

2. 単元の目標と評価

(1) 単元の目標

地図について興味、関心を高めるとともに、索引、凡例、方位、地図記号、等高線、縮尺など地図を活用するための知識や技能を身に付けることができるようにする。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	社会的思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・地図に関心をもち、進んで学習課題を考えようとしている。・地図を活用し、地形や人々の生活の様子を進んで調べようとする。	<ul style="list-style-type: none">・地図帳を活用し、土地の様子や特色から人々の生活の様子について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none">・地図帳を活用し、土地と生活の様子をまとめることができる。・調べたことを白地図などに工夫して表すことができる。	<ul style="list-style-type: none">・索引の使い方や地図記号、等高線の意味など地図を読むための基本的な約束ごとやきまりを理解している。・地形を利用した人々の生活の様子や工夫を理解することができる。

2. 単元について

地図帳は小学校第4学年で配給される。地図の学習においてつまずきが予想される技能は等高線の読み方、地図上の距離と実際の距離の換算であるという。

小学校3年生の「学校のまわり」の学習では、学区域とその周辺の地図、そして板橋区の地図を活用しながら、四方位や簡単な地図記号、土地利用の色分けについて学習する。しかし、

児童は4年生で地図帳を渡されたものの、地図帳の活用について継続的、系統的な学習が十分にされていないため、地図帳への興味、関心の度合いは決して高いとはいえない。

また、これまでの私の実践を振り返ってみると、地図帳の活用指導に対しての意識が低く、勢い教材研究や授業開発も正直言って十分とはいえなかった。その結果、児童は地図帳の存在は認識しているものの、目的をもって活用する機会はそれほど多くはない。

そこで、地図帳の活用の基本的な学習内容を年間に散りばめ、今後の学習に活かせるよう知識や技能を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

4. 目指す児童像

(1)自分の考えを伝え合う子

「こうすればこうなるだろう」「おそらくこうだろう」と、推測しながら考えることの好きな児童は多いが、その思考過程を学級全体に対し、言葉で表現し、伝えようとする児童はそれほど多くはない。また、学習活動の楽しさを感覚的にとらえているだけで停滞している児童のためにも、他者の考えを受けたり、自分の考えを明らかにしやすくする場を保証する必要がある。

そこで、自分と他者と対話しながら学びを深める場として、隣同士のペアで進める学習を設定した。最も身近である隣同士を核にしなが、全体への学びとなる集団を形成していきたい。

(2)互いのよさを認め合える子

児童は、単学級という狭い人間関係の中で生活しているため、ともするとこれまでの固定化した互いの見方を引きずりがちである。それは、個々に秘める多くの力やよさ、成長発達に伴って身に付く新たな思考力を十分発揮できずに埋没させているからではないかと考える。

学習活動の中で一皮ずつ古い皮を取り去っていくことは容易なことではない。

新たなよさを認め合う前に、個々のよさを発揮させるには、自らの考えを安心して表明できる場（集団）を作ることもちろんのこと、意欲的に学習していくことのできる協同学習という授業手法も有効であると考え、今回の学習単元ではペア学習を中心に据え、全体への波及をねらった。

5. 児童の実態

児童の多くは知識や技能を身に付けるための努力を惜しまない。反面、生活指導上個別に対応しなければならない児童が少なくない。例えば、コミュニケーション力が十分でないため、友達としばしばトラブルになる子、言葉が暴力的で自分本位な子、興味がわからない活動には背を向けてしまう子などである。

しかし、互いにフォローし合い、支え合っていこうとする気持ちは、4月以降格段の成長がみられ、担任としてうれしいことの一つである。

1学期の社会科は、学校近隣に点在する4か所の施設を見学する活動とゲストティーチャーによる体験学習を軸に、事前学習→見学（体験）→事後学習という学習パターンで展開してきた。社会科の学習は、どちらかという苦手と答える児童が多い。それは、覚えることが多いからというのが大半の理由である。それでも少しは楽しいと感じる活動は、調べたことを図解してまとめたり、実際に見学して分かったことをワークシートや新聞にまとめたりすることと答えている。

6. 主題にせまるための手だて

(1) 課題提示の工夫

地図を読むための「地図力」をつける学習の流れ（知識としてつかませたいことを伝える→地図帳・白地図・その他の作業→話し合いなどで共有する）と、課題を板書したり、掲示したりするなどして明らかにする。

(2) 学習形態・話し合いの工夫

作業のための隣どうしのペア、修正のための生活班のグループ、話し合いのための学級全体といった形態を作り、学習活動の目的に応じて意見交換ができるようにする。

(3) 振り返りの工夫

自分の考えと友達のことを比べることを中心に学習したことの振り返りをさせる。

(4) その他の学び合いの工夫

作業をする前には、全体での話し合いを行い、作業をする上での観点を明確にする。

3. 指導計画

「地図のひみつをさがそう」（特設単元）

◎47都道府県名・位置・行政区分<7月のきらきらタイムより10分×20回>



- ①地図記号を思い出せ<5月>
- ②四方位、八方位を覚えよう<6月>
- ③さくいんはこうやって使う<9月>
- ④等高線ってなあに<10月・本時>
- ⑤東京都の地勢図と生活の様子<12月>
- ⑥地図のきより、本当のきより<②月>


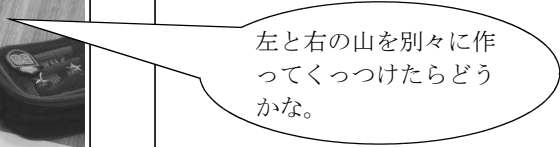

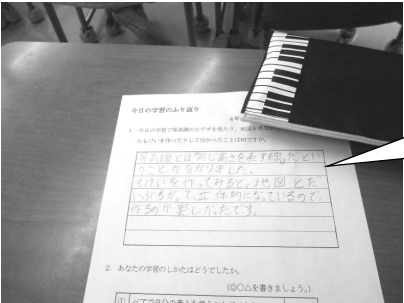
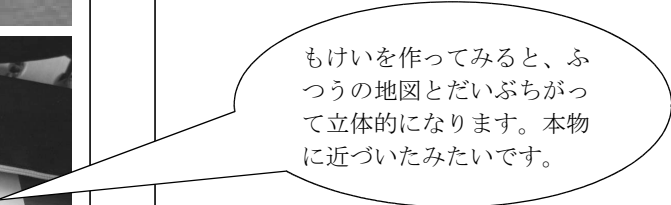
4. 本時の指導(4/6)

(1) ねらい

等高線の意味が分かる。

(2) 展開

	学習活動と児童の反応	形態	支援や手だて（◇）・評価（☆）
10	①本時のめあてをつかむ。		◇帝国書院ホームページ「等高線ってなあに？」のアニメーションを見せる。
	等高線の意味を知り、島のもけいをねん土で作ろう		
15	②アニメーションから等高線の意味について理解する。	全体	◇「同じ高さを表す線」＝「等高線」を強調する。
20	③ある島の地図を見て、気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・等高線の高さの数字 ・周りの形がひょうたん型 ・2つの山がある。 ・左の方の山が高い。 ・急な坂とゆるい坂 	全体	◇まず、上から見たおおよその外周形をとらえさせる。次に等高線の数字に着目させて、左右の山の高低差をつかませる。 ☆平面の等高線の図から、立体としての島のおおよその形を知ることができたか。
	山が2つあって、左の山の方が20m高いということが分か		
	④等高線をヒントにライト粘土でおおよその形をペアで作る。 	ペア	◇学習活動③で発表されたことをヒントに、ペアで相談しながら作るよう助言する。 ☆立体としてとらえるための相談をしながら作業しているか。 ☆外周の形、左右の山の高低差が表されているか。
	少しずつ高くなっていくんだから1枚1枚重ねていったらどうかな。		

35		
40	<p>⑤どんなことに気を付けて作ったのか発表する。</p>	<p>全体 ◇未完成で終わってしまったペアなどにも迷ったことや疑問に思ったことを発表させる。</p>
45	  <p>⑦発表する。</p>	<p>個 ◇書き出せない児童には、本時のねらいにそった振り返りができるように、等高線の意味や模型作りをしたことを想起させるように助言する。</p> 

5. 研究協議・指導講評

(1) 研究協議

1) 課題提示の工夫について

- ・めあて、流れの提示がよかった。子供たちが流れについてよく分かっていたようだ。
- ・課題に分かりづらい部分があったかもしれない。課題の中に、ペアで模型を作ることをきちんと入れた方がよかった
- ・最初に地図を見せてからアニメーションを視聴させる方が課題をつかませるのに意識が高まる。

2) 学習形態・話し合いの工夫について

- ・ペアについては実態にあった組み合わせであった。
- ・ペアの時は机を1つにするか、または向かい合わせにすると2人の距離が縮まり、意見を言ったり、聞いたりしやすくなる。
- ・何について話し合わせたかったのかが、はっきり伝わっていなかったようだ。話し合いのポイントを板書してあげるとよかった。

3) 振り返りの工夫について

- ・等高線についてはほとんどの子供がよく理解していた。山が2つなので模型作りでは2人が組み合わせるだけで終えてしまうペアがいくつかあった。
- ・感想に近い振り返りが多かったので、全体でもう一度、学習のめあてに戻ってから振り返りを書かせるとよい。
- ・終末に、どの作り方が一番正確かという交流があってもよかった。

(2) 指導講評(板橋区立前野小学校副校長 高橋慎二先生)

1) 良かった点

- ・学習内容がゴール地点まで明示されたことで、子供たちが安心して学習することができた。
- ・等高線のアニメーションを見せながら大切なポイントを復唱させていたことは、しっかりと覚えさせるのに不可欠な活動である。
- ・等高線に対する考えや思いをその子なりに意見を述べていた。地図に色が塗られていれば、気付くことがもっと多くなるかもしれない。
- ・模型を紙粘土で作らせたことは、平面の地図から空間認識や地理的な認識へと発展する。頭だけでなく手で学ぶ活動を入れたことは、等高線を感覚的につかむ意味でもたいへん有効であった。

2) 改善点

- ・最初に地図を十分に見せて、気付くことや疑問を出させてからアニメーションを視聴させると、いっそう目的のある視聴ができる。
- ・学習課題を「等高線のよさを模型を作ったしかめよう」とすれば、等高線の疎密にも目が向いたかもしれない。
- ・断面図を用意するとよかった。さらに色分けをさせる作業を入れると理解しやすい。
- ・模型作りは一人作業でもよかった。山も1つでよい。一人ひとり作業をさせてからペアで相談し、さらにグループや全体で意見交換すると学び合いが深まる。
- ・振り返りで、「等高線とは・・・」「等高線のよさは・・・」という書き出しを示してあげたり、使わなければいけないキーワード(例：高さ、等しい、急、ゆるやか など)を指定したりすると焦点化された振り返りをさせることができる。

10. 成果と課題

1) 成果

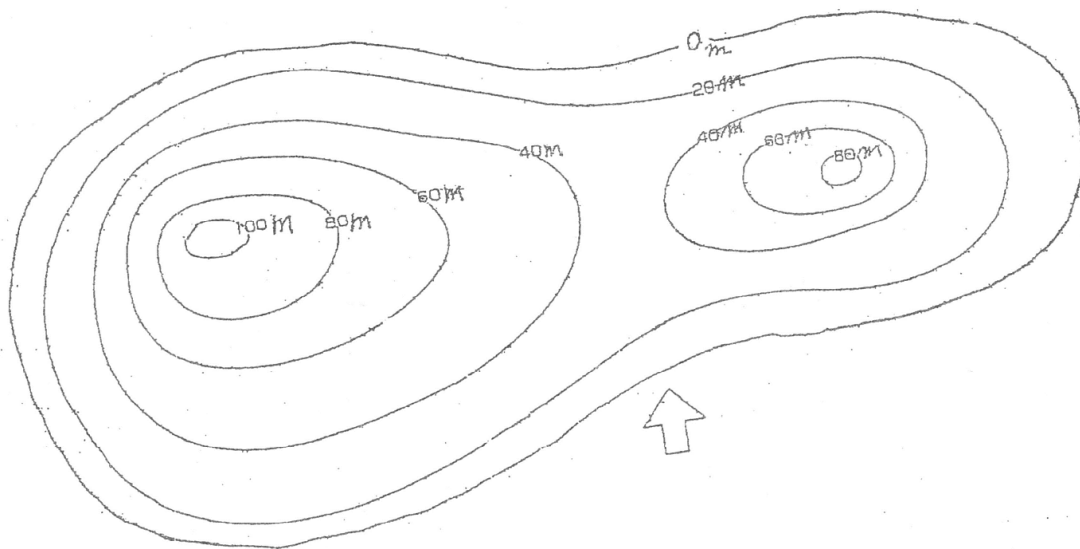
- ・今回「地図学習」を特設単元としてひとまとめにして計画したことにより、指導項目を
もれなく扱うことができた。
- ・全体でのアニメーションの視聴とペアによる模型作りの活動は、等高線を通じて、子供
たちを地図という平面の世界から立体空間の世界へと認識を高めることができた。
- ・ペアの活動は自分の考えを出しやすく、友達の見解も受け取りやすい。学級の実態にあ
った学習形態の一つであった。

2) 課題

- ・課題提示において、どのような活動をしながらか、何が分かればよいのかを明確にするた
めに、提示する言葉を吟味する必要がある。
- ・作業や話し合いがうまく進まないペアに対する支援の言葉かけや支援の方法に工夫が必
要である。
- ・学びを広めるために、作業しながらペアで気付いたことや考えたことを全体の場で交流
する場面を設定すべきだった。

資料

等高線だけの島の地図



振り返りカード

今日の学習の振り返り

4年1組 ()

1. 今日の学習で等高線のビデオを見たり、地図を見ながらペアで相談しながらもけいを作ったりして分かったことは何ですか。

等高線とは同じ高さを表す線だということが分かりました。
もけいを作ってみると、地図とた
いぶちが、立体的になっているので、
作るのが楽しかったです。

今日の学習の振り返り

4年1組 ()

1. 今日の学習で等高線のビデオを見たり、地図を見ながらペアで相談しながらもけいを作ったりして分かったことは何ですか。

1人で作るよりも2人で作ったほうがうまくつくれるし、
のしく作れる。等高線を見ながら作るとうまさがあり
せうれち分かりやすいし作りやすい。等高線を見ながら作
った等高線の意味がよく分かりました。山の高さは左の
ほうがまくて右のほうが高い。

今日の学習の振り返り

4年1組 ()

1. 今日の学習で等高線のビデオを見たり、地図を見ながらペアで相談しながらもけいを作ったりして分かったことは何ですか。

いつも、島とか山をねん土で作る
時、木炭で見たねん土で作っていた
けれど、真上から見て作ったら、土の
のぼちもわかるし、いつもとちがう
形ができました。

今日の学習の振り返り

4年1組 ()

1. 今日の学習で等高線のビデオを見たり、地図を見ながらペアで相談しながらもけいを作ったりして分かったことは何ですか。

・等高線は、同じ高さの線だということ
がわかりました。
・見たによって見えにくい場所と
見えやすい場所があるということか
わかりました。
・等高線があるところから土盛りが
見えることが一目でわかることか
わかりました。

2. あなたの学習のしかたはどうでしたか。

(◎○△を書きましょう。)

① ペアで自分の考えを言うことができた。	◎
② 友達の考えをよく聞くことができた。	◎
③ ペアで協力して、もけいを作ることができた。	◎
④ 等高線の意味が分かった。	○

2. あなたの学習のしかたはどうでしたか。

(◎○△を書きましょう。)

① ペアで自分の考えを言うことができた。	◎
② 友達の考えをよく聞くことができた。	◎
③ ペアで協力して、もけいを作ることができた。	○
④ 等高線の意味が分かった。	◎

第5学年 国語科学習指導案

平成24年7月4日（水）第5校時

児童数 35名

指導者 小泉 裕子

1. 単元名 情報を深める

「新聞を作ろう」

2. 単元の目標と評価基準

(1) 目標

- ・目的や意図に応じて、調べたことや考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えながら、書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する。(書くこと)
- ・身近な問題を調べて記事を書いたり、持ち寄った記事を編集したりして新聞を作る。(書くこと)
- ・書いた記事を発表し合い、表現の効果などについて確かめたり、工夫したりする。(書くこと)

(2) 評価基準

関心・意欲・態度	書くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項
・自分の考えたことを伝えたいという思いをもち、相手に伝わるように事実や考えたことなどを、区別しながら書こうとしている。	・題材に関する情報を集めて自分の考えを明らかにして、その考えを支えるための根拠や事例となる資料を集めている。(書く・ア) ・意見と事実が読み手に分かるように、接続語や表現の仕方を工夫して書いている。(書く・ウ) ・書いた文章を読み合い、表現の仕方に着目して、助言し合っている。(書く・カ)	・文章の中での語句と語句との関係を理解している。

3. 単元について

日々の生活の中でメディアの占める比重がますます大きくなっている。テレビ・新聞・ラジオ以外にも、インターネットによる情報が当然のように飛び交う時代だ。公的な情報

だけでなく個人が発する電子メール、ブログやツイッターなどを通して、人々は実に多くの情報を簡単にそして素早く入手することができるようになった。しかし、同時に社会には莫大な量の情報が氾濫している。そのような環境の中から、自分の欲しい情報、正確な情報だけを、見つけ出す事は容易ではない。また、一方で誤った情報に振り回されてしまうことも起こりえる場合もある。

このような時代背景を受け、情報リテラシー教育（情報の正誤を正しく判断する力・多くの情報の中から、必要かつ正確な情報を収集、獲得する力・多くの人に正確かつ、有効な情報を発信、伝達する力を養う）ことが求められていると考えられる。

本單元では、メディアの一つである「新聞」を取り上げ、「言葉と事実」の説明文教材の学習や様々な新聞記事・広告の文言の比較等から、同じ事実でも伝える人の物の見方や考え方の違いから、受け取る人に違った印象を与える可能性があることを理解させる。

また、新聞社の記者から、新聞を作るまでの流れや新聞記事に関する取材等の経験談について話を聞き、新聞作りに興味をもたせる。その上で、児童に情報を発信する立場（伝える人）に立たせ、受け取る側（読む人）にどのような印象を与えるかに気を配りながら、調べた事柄について情報を整理しながら書く力をつけさせたいと考えた。

新聞を題材として、自分が調べたいテーマを設定し、追求し、自分が「伝えたいこと」の情報を整理しながら記事にまとめていく活動を行う。この活動から、読み手を意識して、事実と自分の考えを明確に区別して書く力を養えると考えた。さらに、自分達が書いた記事をよりよくするために、質問や助言をもらい、文章を見直す活動は、表現の効果を確かめたり、工夫したりする「推敲」する力を育むことにつながると考え、学習活動を設定した。

4. 目指す児童像（協同学習の視点から）

(1) 自分の考えをもち伝え合う子の育成

高学年になり、自分の考えを明確にもち、相手に伝えようとする児童も増えてきた。自分はこう考えるという意見や思いを学習や生活場面の中で、相手に伝える場面を目にする機会が増えている。中には、これまでの自分の行動が、様々な学習場面で、考えを伝え合う活動を通して、友達に左右されてしまっていたことがある、と振り返ることのできる児童もいる。しかし、一方で、自分の考えをもつことが難しく、学習の場面で「今回も何も考えられなかった。」という思いをもつ子もいる。そのような児童も「次は何か意見をもちたい。」と前向きな思いをもっている。

そこで、学習場面を中心に、第一に自分の考えをもたせる時間を設定しておく。そして、その考えを発表という「伝え合い」からさらに発展させ、一つの答えを導きだしたり、考えを総括したりできる児童に育てていきたいと考える。その素地として、自分の考えを安心して発表できる「あたたかく信頼しあえる学級集団」にしていきたい。

特に、本單元では、各グループの課題設定の場面、課題追求の調べ学習、記事の作成等

の活動を通して「自分は〇〇を調べたい。」「〇〇さんは、これを調べたい。」という意見から、全体の意見にまとめながら課題設定をさせたい。また課題追求や記事を書く学習では、分からないことや表現しにくいことを友達に相談したり、教えあったりする中で、学び合いを深める学級集団を目指していきたい。

(2) 互いのよさを認め合い高め合える子の育成

自分の考えを「間違ってもいいのだ、大丈夫、」と思って発言するためには、「信頼に裏打ちされた学習集団」であることが大切であると考えます。

単学級ということもあり、児童達は互いによく互いを知り合っているが、高学年ならではの迷いが生じたり、この子は〇〇な子という、見方が定着してしまっていたりする現状がある。しかし、児童達は常に学びたい、自分をどんどん変えていきたいと思っており、様々な場面でその様子がうかがえる。個人の願いが、いつか「自分だけでなく、自分を含めたクラスの友達みんなで成長していきたい。」と思えるような他を思いやる児童に成長してほしいと願っている。

本単元の「本時」の学習では、質問や意見（よさを中心にしたもの）だけでなく、助言という項目を設定する。意見は相手のよさを認め合うために欠かせない観点であると考えた。その意見によって一人一人の自己有用感を高め、相手のよさを見出したいという思いにつながると考える。そして、「助言」は時に厳しいものになるかも知れないが、「自分がさらに成長できる一つのきっかけ」につながるという事を実感することができると考えた。最後に、相手から受ける質問について考える活動が、自分達の意見をさらに裏付けることにつながると考える。

これらの活動を通し、互いに情報のやりとりをしていくうちに、良さを認め、互いに高め合う活動につながるようにさせていきたい。

5. 児童の実態

新聞に関するアンケートを実施したところ、約8割の児童は「新聞」が自分たちの生活に役立つ物であるという意識をもっている。また、学級の2/3が新聞に週に幾度かは目を通し、新聞を読む事を好む児童は2/3いる。しかし、新聞を読むことを好まない児童は、目を通すことを避ける傾向があり、学級の1/3いる。新聞記事の内容についての項目では、政治・社会・環境に関する情報に興味をもっている児童が多い。しかし、一方で、スポーツ・テレビ欄のみに興味関心をもつ児童もおり、新聞の特性と児童の関心は必ずしも一致しない状況だ。

「書く」学習については、5年生になり、紹介スピーチ文を文章全体の構成を考えて書く活動を経験した。また、「10分で200文字」を目安に日記を書く活動を定期的に行っている。しかし、「書く」ことに抵抗感をもっている児童が全体の半数を占めている。本単元で取り扱う新聞記事のような形式で「目的に応じ、課題について、調べたり、書いたりす

ること」について意欲的な児童もいる反面、1/3の児童は消極的な様子である。

6. 主題にせまるための手立て

(1) 課題提示の工夫

- ・全体計画を示し、自分たちのクラスのオリジナル新聞を作る課題を明確にする。
- ・新聞社で実際に行われている「新聞作成」の流れを踏まえ、学習を進める。
- ・各グループを「〇〇部」と設定する事で「記者」であるという意識を高める。

(2) 学習形態・話し合いの工夫

- ・グループ編成は、自分が書きたい記事の内容によって行わせるが、児童の学力を考慮した編成をする。
- ・お出かけバズの学習形態を活用し、他グループに特派員を派遣して意見交換を行わせる。
- ・質問や意見を出しやすいように、観点（意見・助言・質問）を提示することで話し合いを活発化させる。
- ・複数の教室を活用し、活動の場を確保する。

(3) 振り返りの工夫

- ・始めの記事の内容と、意見交流を行った後での推敲の内容を比べ、変容をとらえさせる。
- ・参考になった意見と友達の考えを中心に振り返りをさせる。

(4) その他の学び合いの工夫

- ・児童達の意見や考えを活発化させるために、2分間の記事の説明（記者会見）をさせ、特派員から、質問・助言・意見等を受けさせる。
- ・事前に全グループの記事を印刷・配布し、記事を読んでおくようにさせる。
- ・特派員は、前半・後半で4つのグループの発表を聞きに行くようにさせる。
- ・特派員から受ける質問・助言・意見をメモカードに記入させ、後で、参考にする時の材料とさせる。

7. 指導計画

次	時	学習活動
1 次	1	新聞ができるまで
	2	～毎日新聞社の記者による出前授業～
	3	新聞記者になって「ブータン王国についての記事」を書こう。（記事の書き

	4	方の指導) 記事に見出しをつけよう。(共通教材における効果的な見出しの付け方)
2 次	記者になり、5年1組新聞作ろう。～トップ記事をねらえ～	
	5	自分たちの新聞を作るために、テーマを決め新聞の構成を考えよう。(割り
	6	付け・取材計画)
	7	取材活動や記事を製作するために、情報を集め、記事を書こう。
	8	↓ (インターネット・本・インタビュー・新聞等による取材活動)
	9	↓
10		
11	よりよい記事にするために、デスク会議をしよう。(本時) 記事を完成させ、トップ記事を決めよう。	
3 次	12	完成した新聞を読み合い、感想を交流する。

担当部署 (担当部はM新聞社の編集部を参考に設定)

担当部	時間	テーマ	メンバー	メンバー	メンバー	メンバー
①社会部 1	後半	原子力発電				
②社会部 2	前半	なめこ現象				
③経済部	前半	お金?				
④外信部	後半	オリンピック				
⑤科学部 1	前半	病気				
⑥科学部 2	後半	宇宙				
⑦運動部	後半	ギネス				
⑧生活報道部	前半	料理				
⑨学芸部 1	前半	話題の人				
⑩学芸部 2	後半	和紙				

メンバーは3～4人のグループで編成した。

8. 本時の指導

(1) 目標

- ・互いの記事を読み合い目的に応じて自分の考えを相手に伝えたり、聞いたりする
- ・相手の意見や考えを受けて、記事を推敲することができる。

(2) 展開

学習活動と児童の反応	形態	支援や手立て（◇） 評価（☆）
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>記事の内容について話をし、相手から質問や意見、助言を受け、記事の内容をよりよくしよう。</p> </div>		<p>◇事前に各グループの記事を配布し、読ませておく。</p>
<p>2. 学習の流れについて確認する。</p> <p>3. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> デスク会議① 「記者会見と特派員の交流」 </div></p> <p>発表者（会見者）は記事についての説明をし、聞き手（特派員）から意見や助言、質問を受ける。</p> <p>例：会見者（発表者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の記事に興味をもち、△について伝えたいと思った。 <p>特派員（質問者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の様子がよくわかります。（意見） ・この文章はわかりにくいので減らしたり書き換えたりするといいです。（助言） ・この言葉をくわしく教えてください。（質問） <p>※前半・後半に別れて活動する。</p>	<p>全体</p> <p>個 又は グル ープ</p>	<p>◇質問・意見・助言の内容を提示する。 （記事をパワーアップさせるための三つの技参照）</p> <p>◇本時の学習の流れを提示する。</p> <p>◇各部からの発表は2分以内とする。 発表者：記事で伝えたいことを中心に話させる。 資料がある場合は提示させる。 質問について説明させる。 特派員：質問・意見（良い点）・助言をさせる（メモカードを活用させる）。</p> <p>◇特派員は前半・後半で4つのグループを回るようにさせる。</p> <p>◇一人で課題解決が難しい児童には、ペアで活動させる。</p> <p>◇ヒントカードを渡し、意見をもたせやすいように促す。</p> <p>◇記入したメモは、各部のBOXに入れさせる。</p> <p>☆目的に応じて自分の考えを相手に伝えたり、聞いたりしている。</p>



4

デスク会議②

～記事のよりよくして、
トップ記事をねらえ～

受け取った質問や意見を読み、記事
を練り直す。

例・内容がわかりにくいから、次の
ように変えよう。

- ・ここに、アンケートの結果を入
れよう。
- ・見出しは、〇〇の言葉を△△の
言葉に変えよう。



5. 振り返りをする。

例・この表現がわかりやすいと言
われ自信がもてた。

- ・説明の仕方が難しかったが、表現
の仕方がわかった。
- ・事実と意見が区別できていなかっ
たことに気付いた。

グ ル
ー プ

この言葉は、どういう意味か
な？もうすこし詳しく書い
てもらおうとわかりやすいな。

◇活動場所を移動させる。

◇記事をよりよくし、チームで一体と
なり、トップ記事を書くことを意識
づける。

◇受け取ったメモカードをもとに、記
事を推敲させる。

◇自分たちの記事に訂正は赤ペンで直
すようにさせる。

◇質問についてすぐに調べることがで
きるように、資料を手元に置いてお
かせる。

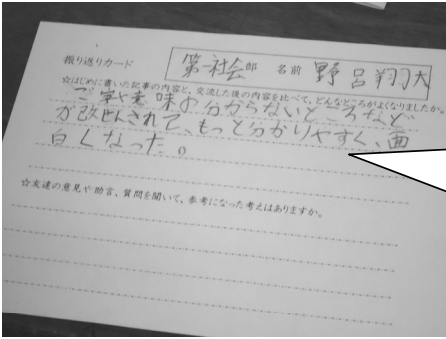
☆相手の意見や考えを受けて、記事を
推敲している。

個

僕たちが書いた記事を読んで、野
球に興味をもったみたい。でも、
ルールを少し詳しく書き込んだ
方がよさそうだね。野球のルール
を知らない人もいるからね。

◇自分たちの最初の記事と交流後の記
事の変容をとらえさせるようにす
る。

◇自分の参考になった意見をした友達
の名前を書かせ、簡単に内容を記述
させる。

<p>・〇〇さんに言われて、新しい表現の仕方を知った。</p> 		<p>◇本時の目当てに沿った振り返りをしている児童を意図的に数名を指名する。</p> <p>アドバイスもらったおかげで、言葉をわかりやすくし、記事の内容を面白くすることができた。</p>
<p>6. 振り返りを発表させる。 7. 次時の活動を伝える。</p>	<p>全体</p>	<p>◇次時の活動への意欲を高めさせる。</p>

本時の流れ（児童に提示した様式）

- ①めあての確認
- ②デスク会議 1（前・後半 10分ずつ）
－ 記者会見と特派員の交流
- ③デスク会議 2（10分）
－ 紙面のトップ記事をねらえ
- ④振り返り

9. 研究協議・指導講評

(1) 研究協議

1) 課題提示の工夫について

- ・全体の学習の流れと本時の流れがよく理解していたために、児童が集中して活動に取り組む事ができた。
- ・デスク会議①から会議②に移行する時に、目当てを振り返ることで、児童が課題を意識し直すことができた。

2) 学習形態・話し合いの工夫について

- ・書いた記事を更に良くしようという思いは伝わるが、断片的な会話になっている傾向があったので、会話を更に深めさせるためには、どのような指導が効果的だろうか。
- ・デスク会議①では、資料や辞書を手に置くことで、相手に説明したり、調べたりする事ができていた。

- ・デスク会議①で、アドバイスを受けた子が、メモをする気持ちを高めるにはどのような手立てが効果的だろうか。
- ・相手から受けた質問に、返答できない児童もいたので、想定質問を考えさせておくのも有効な手立てとなるのではないだろうか。
- ・記事が個人で書いているため、デスク会議②では、個人作業になってしまっていたので、記事を各グループ一つにまとめるとよいのではないだろうか。

3) 振り返りの工夫について

- ・今日の課題と振り返り内容が系統していて良かった。
- ・友達の文章の書き方が参考になったという児童もいた。
- ・振り返り項目を、簡素化してもよいのではないだろうか。

4) その他の学び合いの工夫について

- ・推敲の視点は、①意味内容のアドバイス ②語句の意味 ③漢字の表記について与えており、特に①の内容について話し合いを深めて欲しいと考えた。
- ・単元の性質を考えると、デスク会議①と②を2時間扱いにして構成してもよいのではないのだろうか。

(2) 指導講評（渋谷区教育委員会教育指導教授 藤井英子先生）

○情報についての基本的な考え

- ・人は、情報という刺激を受け、反応し、思考して、行動する。だから、情報は、真実、正確、価値のあるものでなければならない。

○読むことと書くことの複合単元の取り扱いについて

- ・教材文を読むことで、情報モラルについての理解を深めさせる。特に、本学習材「言葉と事実」の内容では、送り手としてのモラルと受け手としてのモラルをしっかり押さえる必要がある。学んだ心構えを生かし、「情報を受けることを活用しながら書く」という流れにすると、内容の深い学習につながるであろう。

○書くときの手引き書の活用の仕方について

- ・各グループで、記事内容を書く時の視点として取り扱くと、児童間での推敲の視点が明確になった。

○本時の授業について

- ・目当てと課題解決の方法は分けた方法が、児童の意識はより高まったであろう。
→「分かりやすく、正確に伝えるために、記事をよくしよう」という課題がよい。
- ・「正確に伝えるための書き方をすることが出来たか」が、評価になる。
- ・評価する、評価される、それをもとに修正する、推敲するという力は今後、求められるものである。

- ・タイプの違う話し合い活動を1時間の中で行うことは、児童の意欲の持続と効率の面から考えても、有効である。
- ・振り返りの観点は、①正確な記事になっているか。②アドバイスできたか。③アドバイスを基に書き直すことができたか。という観点が、本時の課題により迫ることができたであろう。

10. 成果と課題

(1) 成果

- ・学習形態の工夫として、場を複数設定したことで、児童の活動が行いやすくなった。その結果から、活動に合わせて、学習環境を変化させることは、児童の学びを深める手立てになるといえる。
- ・学習の流れを示すことで、児童が主体的に安心感をもって、活動することができる。また、児童同士の交流を中心に活動を進める学習形態は、児童が頭を使って学習したな、という充実感に結びつくことになるため、学び合いの学習形態として有効であるといえる。

(2) 課題

- ・学習形態の工夫で、書く記事をグループで1つに設定する方が、話し合い活動を活性化させることになるであろう。
- ・指導事項をより吟味し、整理することで、児童への指導が一体化するであろう。

(課題の設定・評価・手立ての工夫の一体化)

資料

特派員メモ・振り返りカードの様式と記入例

特派員メモ

部 名前

- ① 社会部() ② 経済部 ③ 外信部 ④ 科学部()
⑤ 運動部 ⑥ 生活報道部 ⑦ 学芸部()

質問 意見 アドバイス その他()

.....
.....
.....
.....

キリトリ

振り返りカード

部 名前

☆はじめに書いた記事の内容と、交流した後の内容を比べて、どんなところがよくなりましたか。

.....
.....
.....
.....

☆友達の見解や助言、質問を聞いて、参考になった考えはありますか。

.....
.....
.....
.....

第 科学 部 名前

- ① 社会部() ② 経済部 ③ 外信部 ④ 科学部()
- ⑤ 運動部 ⑥ 生活報道部 ⑦ 学芸部()

質問 意見 アドバイス その他()

和紙はどの地味きでさかんに作られているのですか？

地方別や県別で作られているところを詳しく書いてほしいと思います。

和紙の歴史が書かれていますともよかったです。原材料など

ここでとられているか、作られているかを言明できるといいです。

振り返りカード

第 科学 部

☆はじめに書いた記事の内容と、交流した後の内容を比べて、どんなところがよくなりましたか。

まだ調べられていない質問があったのでもう一回調べて次の記事にしようと思います。

強毒型についても調べたいと思いました。

☆友達の見解や助言、質問を聞いて、参考になった考えはありますか。

強毒型に介した人間がどうなるのかということを記事にかいていなかったのだから記事はもと強毒型の事を調べて強毒型に介した人間がどうなるのかをかきたいです。友達の見解などを聞いて気づかされた意見があたのでも記事がよくなったと思います。

記事をパワーアップさせるための三つの技

意見：よいところを見つけよう。

- 文章の表現の仕方、見出しの付け方について、見習いたいことを書きましょう。

アドバイス：こうするといよいよ、というところを見つけよう。

- 文に、主語・述語が入っていますか。
- 句読点・漢字など表記の仕方は正しいですか。
- ◎見出しと内容が合っていますか。
- ◎文章がわかりにくいと所はありますか。
↓このように書くとよい。」とつたえよう。
- ◎言葉の使い方が正確か、確認しよう。(固有名詞・数など)
- ◎事実と意見に区別されて書いてありますか。

質問：読んでいて、「聞いてみたいな」「わからないな」と思う所を見つけよう。

- 固有名詞・数に関して聞いてみよう。
- 言葉の意味について聞いてみよう。
- ◎記者の考えを聞いてみよう。
- ◎くわしく知りたいことを、聞いてみよう。

自分が知りたいなど思う所は、みんなも聞いてみたいなど思う事

だから、勇気を出して、自分の声を相手に届けよう。

第 6 学年 道徳学習指導案

平成 24 年 11 月 28 日（水）第 5 校時

児童数 24 名

指導者 荒木 陽子

1. 主題名

「お楽しみ会」 2-（3）信頼・友情 4-（3）責任

2. 資料名

「お楽しみ会」

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

コールバーグは道徳性の発達を 3 水準 6 段階にまとめているが、中でも小学生から中学生にかけてみられる道徳性の発達のな特徴を段階 1～段階 4 としてまとめたものを簡単にしてきた。

段階 1 他律的な道徳性（正しいことは罰や制裁を回避し、権威に自己中心的、無条件に服従すること。行為のもつ心理的、人間的な意味ではなく、物理的結果が善悪を決める。）正しいこと、よいことは、親や先生から叱られないよう、大人の言うとおりにすること（罰や苦痛を避けるため）である。

段階 2 個人主義、道具的道徳性（自己の欲求、時に他者の欲求を道具的に満たすことが正しい行為で、自分の利益や欲求に合うように振る舞うことが正しいとされる。人間関係は市場の取引と同じように見なされ、交換による公平な取引が目指される）。道徳的に正しい行為とは自分にとって得になること、メリットがあることをいい、損になることをしない、将来見返りが期待できることが 大切である。

段階 3 対人的規範の道徳性（他者から期待されるよい役割を実行することが正しいことである）。良心や罪悪感が行動を規制する。人から期待されるように振る舞うことが大事。段階 2 のように自分の権利や幸せを求めるだけでなく、仲間の幸せや福祉も同時に求める。仲間外れにされたら、どんな気持ちになるかを考えることができ、困っている人、悲しんでいる人を助けたいという気持ちが強い。

段階 4 社会システムの道徳性（全体として社会システムを維持することが正しいことで、そのために社会における義務や責任を果たし、権威を尊敬し、与えられた社会的秩序を保つことを志向する）。みんなが同じことをし出したら、世の中はどうなるのだろうかと組織の中で、自分の行為が他の人にどのような影響を与えるのかの問いかけができる。

「お楽しみ会」は、友人との約束を守る事（信頼・友情）とクラスの中での自分の役割を果たし、集団の向上に努める事（責任）との間で起こる葛藤を通して、主人公を取り巻く人の考えや思いを考慮し、主人公にとってどうすることが本人にとっても、周りの人にとっても公平で公正かという視点で問題を考えていく。2時間を通して、他の意見に触れ、自分の考えをもつことを通してより高い道徳的判断力を養うことを目的にし、取り上げた。

価値分析表

智也の班に入るべき	たつきの班に入るべき
信頼・友情	責任
段階1 他律的な道徳性	
<ul style="list-style-type: none"> ・約束を破ったら智也に嫌われる。 ・大の仲良しの智也と一緒にだと楽しい。 ・約束だから 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生が協力するように言っている。
段階2 個人主義、道具的な道徳性	
<ul style="list-style-type: none"> ・智也が喜んでくれる。 ・班で楽しくできそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・智也は話せば分かってくれる。 ・たつきがかわいそう。 ・みんなが「イチローがやればいいのに。」と言っている。 ・先生や友達にほめてもらえる。
段階3 对人的規範の道徳性	
<ul style="list-style-type: none"> ・智也を悲しませてはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの一員としての責任を果たさなければいけない。 ・クラスのみんなが楽しくできる。 ・みんなの期待に応えなくてはいけない。

(2) 児童の実態

休み時間も全員で遊ぶことが多く、グループでの作業や行事に対する取り組みなどの場面を見てみると、高学年にしては男女の仲が良いクラスである。

今回取り上げるモラルジレンマ授業は5年生で3回行い、6年生では5回目の授業が今回である。モラルジレンマ授業の特徴である正解の無いオープンエンドの形をとるため、子供たちは自由に意見を話し、友達の意見をよく聞いている。また、友達の意見や担任が投げかける質問によって、思考が揺さぶられ、それまでとは全く正反対の意見に変わることも少なくない。他の教科でも、グループでの話し合いや共同作業を取り入れたり、自分の考えを書かせたりする機会を多めに設けてきた。そのため意見の根拠となる理由も以前よりよく考えて書いたり、話し合ったりできるようになってきたが、話した子によって意

見が左右される傾向も見られる。また、討論を勝ち負けと捉え、自分の意見に固執し、柔軟性がない子も数人いる。

今回は、道徳的な視野を広げ、ただ賛成、反対と言うのではなく、他の意見を柔軟に取り入れたり、自分の意見と比較したりしながら、理由をつけた自分の意見をもつ子を育てたいと考えこの授業を設定した。これまでの話し合いでは、段階1の意見は少なく、段階2で討論になることが多い。

今回の資料は、6年生の日常では身近に起こりうる葛藤である。クラスの傾向として、これまで見てきた高学年の様子と比較すると、5年生の時は、自己中心的なところや幼さが目立った。6年生になって自分の責任や集団の向上について考えられる子が出てきたことを考えると、子供たちの中では、「約束を守る」ことも「クラスの中で自分の役割を果たさなければいけない」ということも、実体験を伴ってどちらも大切なこととしてとらえていると思われる。

(3) 資料について

話し合いは、個の意見を最後にまとめる形で展開されるが、いずれの判断も正当な道徳的価値に基づいているため、結論が出ないオープンエンドの形で終わることが多い。以前行った「どうする健？」では、両方の立場から歩み寄り、最後には1つの意見に大多数の子が落ち着いたということもあった。またこれまで取り上げた教材では一方に意見が偏ることが多かった。今回の資料は、クラスの考え方の傾向を考え、1つの考えに強く固執することがないように、また子供たちの思考が揺さぶられやすい資料を考えて選択した。主人公に共感的理解をもって考えることができるだろう。

4. 目指す児童像

①自分の考えをもち伝え合う子

友達の意見を聞き、付け足したり、反論したりしながら、理由づけをして自分の意見をもつことができる子。

②お互いのよさを認め合い高め合える子

友達の言うことを最後までしっかりと聞き、相手の立場から問題を見つめ直したり、柔軟に相手の意見を受け入れたりすることができる子。

5. 主題にせまるための手立て

(1) 課題提示の工夫

- ・導入の段階で課題を明示することによって、1時間の見通しをもたせる。
- ・子供たちが様々な意見を持ち、話し合いを通して考えが揺れやすい資料を活用する。
- ・主人公の葛藤が捉えやすいように、1時間目にそれぞれの立場での状況を分かりやすくまとめたものを2時間目にも提示する。

(2) 学習形態・話し合いの工夫

- ・発言をするときに、お互いの顔がよく見え、よく聞こえるような円形の座席の配置にする。
- ・できるだけたくさんの方と話せるように、毎回隣は異なった人にする。
- ・担任に話すのではなく、友達に向かって話す意識をもたせる。
- ・自分はA、Bどちらの考えなのか意思表示するために、机の上に札を立て、話し合い中も意見が変わった時点で替えさせる。
- ・資料は違うが、授業の流れをいつも同じにすることによって、子供たちが先を見通せるようにする。

(3) 振り返りの工夫

- ・学習のめあてが達成できたかどうか学習の終末時に自己評価をさせる。
- ・初めの判断と最後の判断が比べられるようなワークシートにする。

(4) その他の学び合いの工夫

- ・一人一人が主体的に話し合いに参加する意識をもたせるために、他の意見に触れ（書き込みカードの活用）、なぜかと考える場を設け、時間を確保する。また、いろいろな考えがあることを知ることで安心感も生まれるという利点もある。
- ・話し合いを通して学び合いを深める。資料の共通理解のための時間を確保する。2時間目の前に、子供たちがどんな意見をもっているのかを担任が知り論点に生かす。理由が大切なので、理由をしっかりと書く時間を確保する。以上の理由から1単位2時間とする。
- ・話し合いや最後の判断をするために、どのような考え方で取り組むのかを示しておく。
- ・最初と最後、2回考えることは、話し合いを通して考えを深めたり、見直したりすることで、道徳的な視野を広げることができると思う。

6. 指導計画（全2時間）

次	主な学習活動
1	資料を読み、主人公がどのようなことで悩んでいるのかを明確にし、主人公はどうすべきか考え、判断・理由づけをする。
2 (本時)	第1次の判断・理由づけをもとにして、話し合いをおこない、再度、判断・理由づけをおこなう。

7. 本時の指導 (2/2)

(1) ねらい

「信頼・友情」「責任」に関わる話し合いを通して、友情の尊さや自分の責任を踏まえ集団生活の向上に努めることについての道徳的な思考や判断力を高める。

(2) 展開

学習活動 (主な発問と予想される児童の反応)	形態	◇支援や手立て ○協同学習的な取り組み ☆評価
1. 本時のめあてをつかむ。	全体	
理由づけをしっかりと最後まで判断を練り上げよう。		
2. 資料を読み、イチローの葛藤状況を思い起こす。		◇道徳的葛藤を明確に把握するために、資料を読み、状況を確認する。
3. 自分の初めの意見を2人組で話す。 ・イチローは自分が入りたい班に入れば良い。 ・約束は守るべきだ。 ・智也ががっかりすると思う。	2人組	○自分の意見をしっかりとをもって話し合いに参加できるように、友達に声を出して自分の考えを話し、再確認させる。

- ・智也の班にはちか子がいるのだから大丈夫。
- ・大の仲良しならこんなことで関係は崩れることはない。
- ・たつきの班の方がイチローを必要としている。



4. クラスの意見（書き込みカード）に、賛成・反対意見、質問を書き込む。

5. それぞれの意見に対して、意見や質問を述べ合う。

- ・クラス全体のことを考えたら、イチローは行きたいからといって行きたい方に行くのはおかしい。
- ・おとなしい子でもできる。
- ・イチローが約束を破ったら智也が悲しむ。
- ・友達だからこそ、約束をまもるべきだ。
- ・たつきの班を手伝えばいい。
- ・智也にも話せば分かってもらえる。

6. 2つの論点について、全体で話し合いをする。

論点1 「大の仲良しの智也との約束を破って智也の気持ちはどうなるのか」

- ・班作りがうまくいけば智也もうれしいはず。
- ・智也の気持ちよりも班作り。
- ・きっと智也は怒る。

論点2 「たつきの班がうまくいかなかった場合、クラスみんなが楽し

個

○自分とは違う考えに触れ、多様な視点から考えさせるため、十分に時間をとる。

全体
(円形)

○各自がA・Bどちらの考えであるのか分かるように、またお互いの顔が見えるようにするため机の配置を円形にする。

◇時間があれば、違う意見は言うように伝える。

全体

◇話し合いを焦点化するために、論点は事前に2つにしぼっておく。

いといえるお楽しみ会になるのか」

- ・おとなしいけれど、いいアイデアはある。
- ・クラス全体を考える。
- ・5年最後だからまだ6年生がある。



智也の班はイチローが入らなくてもできるけれど、たつきの班はおとなしいから

7. 最後の判断をワークシートに記入し、発表する。

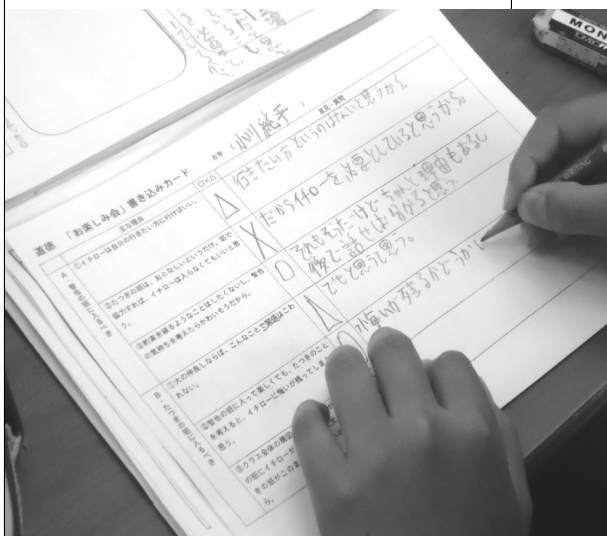
個

◇どちらの班に入るべきかの判断が重要ではなく、なぜそう判断したのかという理由づけが大切であるので、理由をしっかりと書くように指示を出す。

○自分の意見が誰の意見によって変容したのかが分かる意見があれば取り上げるようにする。

8. 振り返りをする。

☆話し合いを参考にし、理由づけがある意見を書いたり、道徳的な判断力を高めたりすることができたか。(ワークシート)



8. 評価

「信頼・友情」「責任」に関わる話し合いを通して、友情の尊さや自分の責任を踏まえ集団生活の向上に努めることについての道徳的な思考や判断力を高めることができたか。

9. これまで活用した資料

- ①「委員会活動」 親切・同情＊責任
- ②「ぼくの詩どう？」 信頼・友情＊公德心・規則尊重
- ③「どうする健？」 希望・勇気・強い意志・向上心＊思いやり・公正・公平・誠実
- ④「アメリカからの転校生」 寛容・謙虚＊規則の尊重

10. 研究協議・指導講評

(1) 研究協議

1) 課題提示の工夫について

- ・課題提示の工夫がされていた。
- ・児童の意識が揺さぶられやすい資料を選んでいった。

2) 学習形態・話し合いの工夫について

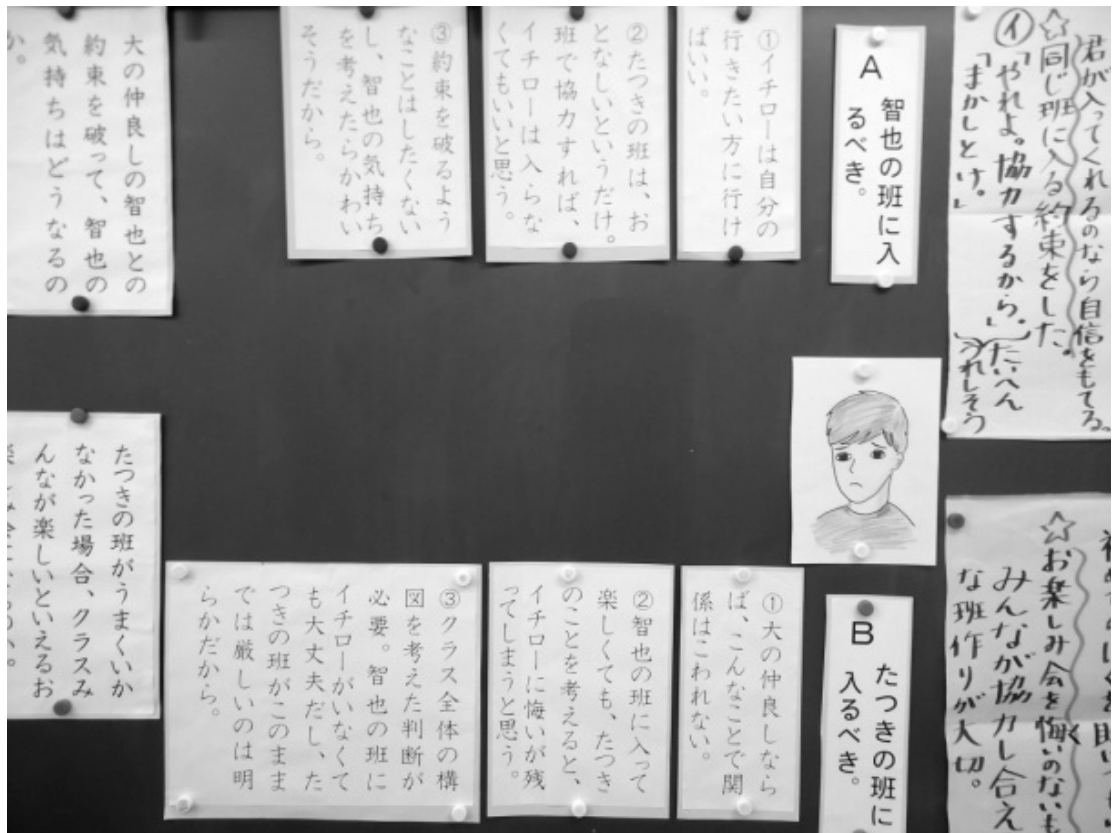
- ・論点を2つに絞り、2段階に分けて話し合いの工夫がされていた。
- ・発言しない子がいないように、という配慮が行き届いていた。

3) 振り返りの工夫について

- ・ワークシートへの書き込みの時間が確保されていた。
- ・意見の根拠となる書き込みがワークシートにされていて良かった。

(2) 指導講評（板橋区教育委員会指導室 指導主事 臼田 治夫先生）

- ・価値分析表にある第3段階で十分話し合いができていた。
- ・一人一人に話をさせたいという教師の願いが十分取り入れられていた。2年間の指導の成果が見えた。
- ・ワークシートに自分の考え（最初の考えと最後の考え）が並ぶことで、メタ認知による自己評価ができていた。
- ・児童一人一人が意見を出し合ったとき、その意見を置き換えてあげる優しさが良かった。
- ・主人公の取り扱い方について、自分を主人公に置き換えて考える時間があったのもよかったと思う。
- ・2時間計画の単元になっているため、各時間の目標とする価値項目を明らかにするとよいのではないか。例）今回は「友情」について考えよう、など



11. 成果と課題

1) 成果

- ・モラルジレンマの授業を繰り返し、話し合いを重ねることによって、自分とは違った意見を聞いて、反対したり、取り入れたりする柔軟な思考ができるようになってきた。自分の意見に固執する児童も減ってきた。
- ・ジレンマを感じる資料を取り扱うことによって、自分の考えを伝えたい、意見を交流したいという児童の姿が見られた。また、どちらの立場も間違いではないということから、自信をもって意見を書いたり、話したりすることもできた。
- ・机の配置を初めて円形にしてみたが、教師に話すのではなく、友達に話すという意識をもって話し合いをすることができた。立場を明確にする札も効果的であった。
- ・道徳的価値を高めていく資料としては適当であった。段階2よりも段階3で意見をもつ児童が多くなった。
- ・理由付けをしっかりと書くように、課題提示をした時点や考えを書く時点で確認を続けたことによって、理由が大切であるという意識が児童に定着した。
- ・資料は違うが、授業の流れをいつも同じにすることによって、児童が先を見通し、安心して、スムーズに授業が流れるようになった。
- ・話す方も聞く方も、一人一人の児童の成長により、それまで人によって左右されていた

た考えが、人ではなく意見そのものの内容に影響され、変容するようになってきた。
認め合う姿勢が高まった。

2) 課題

- ・話し合いをグループでするよりも内容がダイナミックになるため、全体での話し合いをしたが、意見を言う子が限られてしまった。良い意見を書いている子を机間巡視によって見つけ、もっと取り上げるべきだった。
- ・振り返りは、話し合いに時間をたくさん取りたかったため、簡単にしたが、高学年であることを考えると、もう少し自分や友達の成長を振り返ることができる工夫をした方が良かったかもしれない。
- ・いろいろな考えがあるのだが、道徳の授業としては、最後のまとめをどうするのか検討しても良いのかもしれない。



道徳 「お楽しみ会」書き込みカード 6年 ()

	主な理由	○×△	意見・質問
A・智也の班に入るべき	<p>①イチローは自分の行きたい方に行けばいい。</p> <p>②たつきの班は、おとなしいというだけ。班で協力すれば、イチローは入らなくてもいいと思う。</p> <p>③約束を破るようなことはしたくないし、智也の気持ちを考えたらかわいそうだから。</p>		
B・たつきの班に入るべき	<p>①大の仲良しならば、こんなことで関係はこわれない。</p> <p>②智也の班に入って楽しくても、たつきのことを考えると、イチローに悔いが残ってしまおうと思う。</p> <p>③クラス全体の構図を考えた判断が必要。智也の班にイチローがいなくても大丈夫だし、たつきの班がこのままでは嫌しいのは明らかだから。</p>		

「お楽しみ会」

六年 ()

最初の判断

- A. 智也の班に入るべき。
- B. たつきの班に入るべき。

最後の判断

- A. 智也の班に入るべき。
- B. たつきの班に入るべき。

◎ 今回の授業を振り返りましょう。 (よくできた◎ できた○ あまりできなかった△)

1	自分の意見を、理由をつけて書くことができましたか。(最初の判断)	
2	自分の意見を、理由をつけて話すことができましたか。	
3	信頼・友情や自分の責任について自分の意見を練り上げて書くことができましたか。(最後の判断)	

Ⅲ. 研究の成果と課題

本年度の研究の成果と課題

	成 果	課 題
課題提示	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを示すことで、児童が主体的に安心感をもって活動することができた。授業の流れをいつも同じにすることによって、児童の学習の仕方が定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の言葉を吟味する必要がある。何をやるのかではなく、どうなればよいのかをはっきり示すことで課題の達成につながり、児童自身が自己評価しやすくなる。
学習形態 ・話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 活動に合わせて学習環境を変化させる（開いたコの字形や円形など）ことは、児童の学びを深める手だてとなった。 「話し合いの進め方」のカードを使うことで、児童同士で上手に話し合うことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業や話し合いがうまく進まない児童やペアに対する支援の方法に工夫が必要である。 全体での話し合いでは、意見を言う児童に限られないよう、教師が良い意見を書いている児童を机間指導で見つけ、取り上げていく必要がある。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 本時に繋がる前時の児童の振り返りを教師が活用することで、児童はそのよさに気づき、友達の考えを取り入れていく様子が見られた。また、取り上げられた児童も意欲へと繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの時間を重視すると、振り返りが簡単になってしまう。発達段階を考えると、もう少し自分や友達の成長を振り返ることができる工夫をした方がよかった。 指導事項に関する振り返りをさせるために、書き出しを示したり、使わなければいけないキーワードを指定したりする必要がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ポイントカードやクラスの宝の木に実をならせるなどの工夫をすることで、意欲付けになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の特性を外さないで協同学習の視点を取り入れた授業をしていく必要がある。

蓮根第二小学校の実践づくりについて

蓮根第二小学校に伺い、協同学習の考え方と進め方について話をさせていただいたのは2010年6月のことでした。それから3年間、協同を基本に置いた学級経営の中で、授業の最適化を図るという実践づくりを続けてきた成果の途中経過報告がこの資料集です。

教師たちは、おそらく自分自身が思っているよりもはるかに創造的な発想が可能であり、児童の実態に対応する力をもっているはずなのです。知らず知らず積み重ねられてきた、学校現場に存在する不合理な囚われに気づき、それをとらえ返し、時に捨て去ることが必要なのです。

蓮根二小の先生方の3年間の実践は、見方を変えると、上記の囚われから抜け出るという挑戦の積み重ねであったように思います。ここでは、納得のいく授業に数多く出会うことができるようになってきました。今後の実践の展開もとても楽しみです。また、こうした挑戦を可能にする石井校長先生の学校経営の手法も、私には大変参考になりました。

監修者 杉江 修治

おわりに

「きらきら輝いて共に学び合う子の育成」という研究主題で、協同学習に取り組み始めて3年が経ちました。本校の児童は、どの学年、どの学級を見ても励まし合う温かい雰囲気醸成されてきています。これは協同学習を基にした授業研究に、学級担任や専科の先生方が学校一丸となって取り組んだ成果だと感じています。友達を思いやることの温かさや、励まし合い、互いに高め合うときのわくわく感、学級の中での居心地の良さや安心感を知っている児童がたくさんいることは、本年度の研究の具体的な手だてである「見通しをもたせる課題の工夫」「児童が安心して学習に取り組むための学習形態の工夫」「自分の足跡をつかむための振り返りの工夫」を、研究授業だけでなく、日ごろの授業でも行ってきたからこそと思います。

末筆になりましたが、本年度の研究に際してご指導・ご助言いただきました中京大学 杉江修治先生、文部科学省初等中等教育局強化調査官 村山哲也先生、渋谷区教育委員会教育指導教授 藤井英子先生、板橋区教育委員会指導室統括指導主事 齊藤浩雄先生、板橋区立前野小学校副校長 高橋慎一先生、板橋区教育委員会の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも本校の研究にご指導賜りますようお願い申し上げます。

副校長 田中 薫子

監修者

石井 雅喜 板橋区立蓮根第二小学校校長
杉江 修治 中京大学国際教養学部教授
博士（教育心理学）

研究に携わった教職員

校長	石井 雅喜	副校長	田中 薫子			
主管・少人数	合田 孝二					
1年	松永 潤	○石井 優里		音楽		石田由香里
2年	○渡辺 有子		市川 沙織	図工		○長田あかね
3年	杉山抄祐里	◎後藤 栄		養護		○石山 綾
4年	○櫻井 正美			事務		佐林みどり
5年	○小泉 裕子					紀國千枝子
6年	○荒木 陽子		石岡 俊輔	栄養士		矢口 浩子
学習指導講師	白瀬まゆ美					

◎研究推進委員長 ○研究推進委員

キラキラ輝いてともに学び合う子どもの育成 学習形態・話し合いの工夫 (協同教育実践資料18)

2013年6月26日 第1刷発行

著者 板橋区立蓮根第二小学校

監修者 石井雅喜・杉江修治

発行 一粒書房

〒475-0837 愛知県半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

編集・印刷・製本（有）一粒社出版部(代表 都築延男)

〒475-0837 半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

ISBN978-4-86431-202-8 C1337

協同教育実践資料 18

きらきら輝いてともに学び合う
子どもの育成

ISBN978-4-86431-202-8

C1337 ¥2500E

定価 2,500円+税